

# SYLLABUS

2021 年度 春学期

**3年次**

青森公立大学

経営経済学部

# 教員メールアドレス一覧

専任教員	
氏名	E-mailアドレス
青山 直人	
足達 健夫	
飯田 俊郎	
生田 泰亮	
池田 享誉	
植田 栄子	
上田 弘	
内海 隆	
江連 敏和	
遠藤 哲哉	
大森 史博	
大矢 奈美	
香取 薫	
香取 真理	
金子 輝雄	
神山 博	
河野 秀孝	
樺 克裕	
木立 力	
國方 明	
小寺 俊樹	
佐々木 てる	
佐藤 三三	
丁 圏鎮	
紫関 正博	
鈴木 郁生	
高橋 基樹	
丹藤 永也	
中川 宗人	
長岡 朋人	
七宮 圭	
成田 美美	
野村 卓司	
藤井 一弘	
藤沼 司	
エシアナ ベン	

専任教員	
氏名	E-mailアドレス
森 統	
安田 公治	
行本 雅	
横手 一彦	

非常勤講師	
氏名	E-mailアドレス
今村 秀司	
大谷 伸治	
小田切 勇治	

**本ページは印刷して  
 事務局前に置きますので  
 各自受領してください**

白石 智則	
砂場 孝一郎	
高杉 純子	
高柳 友彦	
竹内 紀人	
富岡 淳	
友田 博文	
トリストグーゾフ, A	
中井 大介	
中西 廣	
長谷川 光治	
福原 忠之	
松田 英嗣	
山下 猛	
山本 俊	
ラッシュ アンソニー	
李 恵慶	

# 目 次

科目群	授業科目名	単位	区分	担当教員	ページ	
教養科目	仏教の思想	(4)	選必	【2021年度秋学期開講予定】	—	
	メディアとジャーナリズム	(2)	選必	【2021年度秋学期開講予定】	—	
	民法	(4)	選必	高橋 基樹	1	
キャリア教育科目	事業論Ⅱ	(1)	選必	小田切 勇治 ほか	5	
	事業論Ⅲ	(1)	選必	【2021年度秋学期開講予定】	—	
専門科目	経営学科	会社法Ⅰ	(2)	選必	白石 智則	7
		グローバル経営論	(2)	選必	【2021年度秋学期開講予定】	—
		組織学習論	(2)	選択	丁 圏鎮	10
		監査論	(4)	選択	紫関 正博	13
		税務会計Ⅰ	(2)	選択	金子 輝雄	17
		財務戦略	(2)	選択	【2021年度秋学期開講予定】	—
		商業実習	(4)	選択	砂場 孝一郎	20
		環境経済学 【他学科展開科目】	(2)	選択	青山 直人	41
		地域企業論Ⅰ 【他学科展開科目】	(2)	選択	生田 泰亮	24
		地域社会論Ⅰ 【他学科展開科目】	(2)	選択	佐々木 てる	27
	地域経営論 【他学科展開科目】	(2)	選択	足達 健夫	53	
	経済学科	地域経済学	(4)	選必	樺 克裕	30
		産業組織論	(4)	選必	小寺 俊樹	34
		実証経済分析	(2)	選択	富岡 淳	38
		環境経済学	(2)	選択	青山 直人	41
		ファイナンス理論	(2)	選択	國方 明	44
		社会保障論	(2)	選択	大矢 奈美	47
		経済特殊講義Ⅲ	(2)	選択	【2021年度秋学期開講予定】	—
		経済特殊講義Ⅳ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">注1</span>	(2)	選択	中井 大介	50
		会社法Ⅰ 【他学科展開科目】	(2)	選択	白石 智則	7
財務戦略 【他学科展開科目】		(2)	選択	【2021年度秋学期開講予定】	—	

# 目 次

科目群	授業科目名	単位	区分	担当教員	ページ	
専門科目	地域みらい学科	地域経営論	(2)	選択	足達 健夫	53
		地域の産業Ⅱ	(2)	選択	松田 英嗣	56
		地域ICT戦略論	(2)	選択	木暮 祐一	59
		地域みらい特殊講義Ⅱ	(2)	選択	柏谷 至	62
		経営革新論	(2)	選択	生田 泰亮	65
		行政法務論	(4)	選択	【2021年度秋学期開講予定】	—
		フィールドリサーチⅡ	(2)	選択	足達 健夫	68
					飯田 俊郎	
					生田 泰亮	
					遠藤 哲哉	
香取 薫						
佐々木 てる						
安田 公治						
会社法Ⅰ	【他学科基幹科目】	(2)	選必	白石 智則	7	
マクロ経済学	【他学科展開科目】	(4)	選択	山本 俊	71	

【注1】「経済特殊講義Ⅳ」は秋学期開講科目ですが、2021年度は春学期に開講します。

【注2】「経済変動論」はカリキュラム改定に伴い、2021年度から2年次配当の秋学期開講科目となります。2021年度は2年生と合同クラスで秋学期に開講します。

<b>〔科目名〕</b> <b>民法</b>	<b>〔単位数〕</b> 4単位	<b>〔科目区分〕</b> 教養科目 (第2群)文化と社会
<b>〔担当者〕</b> 高橋 基樹 TAKAHASHI, Motoki	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> 講義開始後に指示する。 <b>場所:</b> 617 研究室	<b>〔授業の方法〕</b> 講義形式中心
<b>〔科目の概要〕</b> <p>法を学ぶとは何か。法とは、基本的には、「～すべし」というルールであり、それに従わなかった場合には国家権力による強制もしくは制裁が加えられる一側面がある。すなわち法学とは、「何が正義か」を探究する学問である。そこで本授業では、法と私たちの生存する社会・日常社会とのかかわりに着目しながら、「法とは何か」、「正義とは何か」について探究する。具体的には、日常生活に関する法律である「民法」を取り上げ、日常の売買契約や賃貸借契約などの取引といった契約事項・経済活動をめぐる裁判事例等の具体例を取り上げて、法および法律が私たちの日常生活と深く結びついていることを概説し、「民法」という法律の効果のあり方について学ぶ。また「民法」は、結婚による家族形成や、家族の死去による相続といった家族関係の問題についても規定していることから、こうした家庭における日常生活において法および法律がどのように機能しているのかについても学ぶ。</p> <p>なお「民法」という法律は、日常生活において私たちが「自由」に生活できることを念頭におき、あるべき「正義」、すなわち日常生活におけるルールを定めている。こうした「民法」の役割を認識したうえで、「民法」におけるルールの守り方(コンプライアンス)と「民法」という法律の特徴について学ぶ。</p>		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・「なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか」</b> <p>「民法」は、法律の中でも私たちの日常生活に密接に関連する事項について規定している規範であることから、日常生活におけるトラブルに対応できるような知識を、本科目を通じて身に着ける。具体的には、売買におけるトラブルにあっってしまったときにどのような対応をすべきか、家族が亡くなってしまったときの相続トラブルに巻き込まれたら、どのような対応が可能かについて学び、将来の自身の日常生活に役立てる。</p>		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> <p>第一に、「民法」という法律の存在意義を理解することを中間目標とし、最終的には以下の事項を習得することを最終目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、法学に対する基礎的な知識を修得し、「法」という規範の意味を認識する。</li> <li>2、「民法」という法律が、日常生活においてどのようなルールとして機能しているかを学ぶ。</li> <li>3、社会における問題について関心をもち、民法学の知識・理解を通じて、自らの日常的な問題に対する解決方法を検討し、導出する能力を修得する。</li> </ol>		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> <p>本科目での講義内容の理解の定着を促すために、重要な点について繰り返し説明を行う。授業評価アンケートではこれに対して、講義内容への理解度が深められるとの肯定的な意見もあった一方で、復習に割かれる時間が長く、講義後半で駆け足の講義となることがあるという指摘もあった。そのため、こうした内容の指摘については受け止め、改善を心がける。また教員の声量等の問題への指摘があったが、今後はできる限り履修者全員が授業内容を理解できるような声量および声の速度で講義を行うように心がける。なお、講義内容の説明に対する明快かつ簡潔な説明を求める意見もあったが、「民法学」およびこれに関わる「法学」においては、明快かつ簡潔な表現だけで説明を行うことには困難が伴う。ただしこの点については、できる限り、具体的な事例等を用いて、「民法学」および「法学」を具体的なイメージでも捉えられるような講義展開を行うように努める。</p>		
<b>〔教科書〕</b> 六法(種類は特に問わない。たとえば『法学六法21』(信山社、2020年)など) なお、講義は教員が作成したレジュメを主に用いた講義を行う予定である。		
<b>〔指定図書〕</b> 講義中に紹介する。		
<b>〔参考書〕</b> 潮見佳男『民法(全) 第2版』(有斐閣、2019年) 道垣内弘人『リーガルベイス 民法入門 [第3版]』(日本経済新聞出版社、2019年) 田中嗣久・田中義雄・大島一悟『民法がわかった [改訂第5版]』(法学書院、2019年) 田中嗣久・大島一悟『民法改正がわかった [補訂版]』(法学書院、2019年) 生田敏康ほか『民法入門』(法律文化社、2017年) 伊藤真『伊藤真の民法入門 第7版』(日本評論社、2020年) など。上記以外は講義中に紹介する。		

〔前提科目〕 なし	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 定期試験の結果だけでなく、通常授業時における受講生の理解度や積極的な出席態度等を評価対象として、総合的に評価する。	
〔評価の基準及びスケール〕 授業内での理解度把握のための提出物による授業取り組み度（毎回の授業後に復習問題を提示する予定であり、全 30 回のうち数回この復習問題の解答の提出を求める予定である。この正答率をここでの主な評価の対象とする。）10%、小テストの結果（授業内提示の復習問題を基盤にした問題で作成される予定である。）30%、期末定期試験 60%の割合で成績評価を行う。50%以上取得した者を合格とする。 上記の成績対象においては、民法学に対する基礎的な知識を身につけ、理解ができているかどうかを主な評価基準であり、その上で、自身の意見や考え方を有することができているかどうかを補足的な評価基準である。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 授業内で取り上げる民法をめぐるトピックスについては、受講者の希望をできる限り取り入れ、現在起きている社会問題について新聞記事などを活用して取り上げたいと考えているので、随時提案してもらいたい。そのため、最近の憲法をめぐるニュースについて関心をもつことを期待する。 また、授業内容については、授業の進捗を勘案して適宜調整することがある。また受講者の習熟度によっては、授業内容を変更することもある。	
〔実務経歴〕 該当なし	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか):ガイダンス・法とは何か・民法とは何か 内 容:初回ガイダンスをかねて、法とは何か、民法とは何かを考え、それぞれの意味を検討する。その際、「法」とは必ず守るべきものと定義されるのかについて検討する。 教科書・指定図書 レジュメを配布予定。準備学習として、民法とはどういった法律なのか、イメージをもって授業に臨むこと。また、 <u>本シラバスに基づいたガイダンスを行う予定のため、本シラバスを必ず持参のこと。</u>
第2回	テーマ(何を学ぶか):民法における「私的自治の原則」と日常生活における民法の遵守 内 容:日常生活に関するルールを定める民法について、「私的自治の原則」をキーワードとして、「民法＝日常生活における遵守すべき法」の意味を理解する。 教科書・指定図書 配布レジュメに基づく。
第3回	テーマ(何を学ぶか):権利主体としての「人」 内 容:日常生活において、自分自身の権利を主張できる「人」とは一体だれを指しているのかについて講義し、権利の発生始期と終了期について学ぶ。 教科書・指定図書 配布レジュメに基づく。
第4回	テーマ(何を学ぶか):権利主体としての「自然人」と「法人」の区別 内 容:民法上の権利をもつものとして、「自然人」と「法人」のちがいについて講義する。 教科書・指定図書 配布レジュメに基づく。
第5回	テーマ(何を学ぶか):制限行為能力者（未成年・被後見人・被保佐人・被補助人）の権利と契約行為 内 容:成人とは行為能力が異なる「未成年者」・行為が制限される者の権利の保障の在り方について学び、考察する。 教科書・指定図書 配布レジュメに基づく。
第6回	テーマ(何を学ぶか):「人」と「物」との関係 内 容:民法上、定義される「物」とは何かについて講義し、この「物」と「人」との関係について理解を促し、「物」の支配権について学ぶ。 教科書・指定図書 配布レジュメに基づく。
第7回	テーマ(何を学ぶか):意思表示による権利変動・法律行為 内 容:自分自身が所有する「物」について、誰かに譲るなどの意思表示を行うことで権利が変動し、法律行為が成立することを講義する。 教科書・指定図書 配布レジュメに基づく。

第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):契約の成立と解除</p> <p>内容:自分自身が所有する「物」を誰かと売買する「契約」はいつ成立するのか、成立した後に、それを取りやめることはできるのか、取りやめることでどのような責任が生じるのかについて講義する。</p> <p>教科書・指定図書 配布レジュメに基づく。</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):さまざまな契約のあり方</p> <p>内容:民法上に定められている典型契約(売買・贈与・賃貸借・役務提供など)について講義し、民法上で想定される当事者の公平という観念について考察する。</p> <p>教科書・指定図書 配布レジュメに基づく。</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):代理制度の意義と種類</p> <p>内容:本人に代わって、法律行為を行う「代理制度」の意味について検討する。そのうえで、権限のない者が行った代理についてはどのように解決すべきかについて考察する。</p> <p>教科書・指定図書 配布レジュメに基づく。</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):契約における意思表示の不存在</p> <p>内容:「契約」を行おうとする者が、自身の思い違いで「契約」を行った場合にどのような形でそれを取りやめることができるのかについて講義する。</p> <p>教科書・指定図書 配布レジュメに基づく。</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):契約における意思表示の瑕疵</p> <p>内容:誰かに騙されたもしくは強要されて「契約」を行ってしまった場合にどのような形でそれを取りやめることができるのかについて講義する。</p> <p>教科書・指定図書 配布レジュメに基づく。</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):「無効」と「取消し」と「解除」のちがい</p> <p>内容:「契約」に対して、その効果を失う「無効」と「取消し」と「解除」の各々の意味について講義する。</p> <p>教科書・指定図書 配布レジュメに基づく。</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):法律行為と時間との関係</p> <p>内容:法律行為を行う上で、いつから法的効力が発生するか等について確認したうえで、たとえば条件や期限付の法律行為が可能か、期間の定めを不明瞭に行う法律行為は成立するかを取り上げて講義する。</p> <p>教科書・指定図書 配布レジュメに基づく。</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):時効制度の意義と種類</p> <p>内容:「契約」等の法律行為に対する時間的な有限性について、時効制度から講義する。</p> <p>教科書・指定図書 配布レジュメに基づく。</p>
第16回	<p>テーマ(何を学ぶか):物権の意義と物権変動</p> <p>内容:物を所有し、支配する権利としての「物権」の意義について捉え、契約に基づく物権変動とその意思との関係について講義する。</p> <p>教科書・指定図書 配布レジュメに基づく。</p>
第17回	<p>テーマ(何を学ぶか):動産の物権変動と不動産の物権変動</p> <p>内容:動産に対する物権変動と不動産に対する物権変動とのちがいについて、動産と不動産の差異を学んだうえで理解する。</p> <p>教科書・指定図書 配布レジュメに基づく。</p>
第18回	<p>テーマ(何を学ぶか):動産・不動産の二重譲渡の問題</p> <p>内容:一つの「物」について二者以上に対して譲渡の契約が結ばれた時に、その「物」の「物権」は誰が享有するのかについて講義する。</p> <p>教科書・指定図書 配布レジュメに基づく。</p>
第19回	<p>テーマ(何を学ぶか):第三者の悪意による契約介入の問題</p> <p>内容:横取り様な契約の介入を行った第三者に対する物権変動が認められるのかについて講義する。</p> <p>教科書・指定図書 配布レジュメに基づく。</p>
第20回	<p>テーマ(何を学ぶか):占有権と所有権</p> <p>内容:「物」に対する「占有権」と「所有権」のちがいについて講義する。</p> <p>教科書・指定図書 配布レジュメに基づく。</p>

第21回	<p>テーマ(何を学ぶか):共同所有の種類と内容</p> <p>内 容:一つの「物」に対し、数人が持分を有して共同所有する場合について講義し、共同所有の意義について考察する。</p> <p>教科書・指定図書 配布レジュメに基づく。</p>
第22回	<p>テーマ(何を学ぶか):用益物権の内容</p> <p>内 容:「物」に対して自由に処分することはできないが、その利用価値を有することができる「用益物権」について講義する。</p> <p>教科書・指定図書 配布レジュメに基づく。</p>
第23回	<p>テーマ(何を学ぶか):契約成立の問題と債権回収方法</p> <p>内 容:「物権変動」の「契約」が締結されたが、債務が正当に履行されていなかった場合の債権回収方法について講義する。</p> <p>教科書・指定図書 配布レジュメに基づく。</p>
第24回	<p>テーマ(何を学ぶか):担保物権の意義</p> <p>内 容:自身の所有する「物権」に担保を設定することについて講義する。そのうえで、金銭の貸借借において、「不動産を担保に金銭を借借する」という意味について学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書 配布レジュメに基づく。</p>
第25回	<p>テーマ(何を学ぶか):留置権・先取特権の内容</p> <p>内 容:「物権変動」の「契約」が締結されたが、債務が正当に履行されていなかった場合の債権回収方法として設けられている「留置権」・「先取特権」について講義する。</p> <p>教科書・指定図書 配布レジュメに基づく。</p>
第26回	<p>テーマ(何を学ぶか):民法上の親族の範囲</p> <p>内 容:民法上で定められる親族の範囲(親等・血族・尊属・卑属など)について講義し、民法上、「親族」を定めることの意義について考察する。</p> <p>教科書・指定図書 配布レジュメに基づく。</p>
第27回	<p>テーマ(何を学ぶか):家族形成に関する婚姻・離婚の制度</p> <p>内 容:婚姻による家族形成と離婚による家族関係の終了について講義する。また、夫婦同姓・夫婦別姓問題、女性に対する再婚禁止期間に関する問題についても取り上げて検討する。</p> <p>教科書・指定図書 配布レジュメに基づく。</p>
第28回	<p>テーマ(何を学ぶか):民法上の親子関係の成立</p> <p>内 容:民法上の親子関係について、嫡出子・非嫡出子・養子の分類に従って講義し、子の区分の意義について検討する。</p> <p>教科書・指定図書 配布レジュメに基づく。</p>
第29回	<p>テーマ(何を学ぶか):相続のあり方と相続人の資格</p> <p>内 容:民法上の親子関係に基づいて行われる相続の際の相続人について講義し、相続は誰に対して行われるべきかについて考察する。</p> <p>教科書・指定図書 配布レジュメに基づく。</p>
第30回	<p>テーマ(何を学ぶか):相続分の保障</p> <p>内 容:民法上の親子関係に基づいて行われる相続の際の相続人の相続分は、民法上どのように定められているのかについて講義する。</p> <p>教科書・指定図書 配布レジュメに基づく。</p>
試験	<p>定期試験(第1～30回の講義内容を範囲とした、記号選択式の問題+論述式の問題)</p>



<b>〔科目名〕</b>  事業論Ⅱ	<b>〔単位数〕</b>  1 単位	<b>〔科目区分〕</b>  キャリア教育科目
<b>〔担当者〕</b> 小田切 勇治 他 Odagiri Yuji	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> — <b>場所:</b> —	<b>〔授業の方法〕</b> 講義
<b>〔科目の概要〕</b> この講義では、流通業が集積する協同組合青森総合卸センター(以下:問屋町)に勤務している講師が、実際に問屋町で営業している企業と連携してその業務内容を紹介し、それぞれの企業の取り組みを通じて、地域における流通業の役割や次世代につなげるためのさまざまな方策を考える。また自身の日々の生活との関連についてあらためて考え、自身のキャリア形成に繋げることを目的とする。		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</b> 事業論Ⅰ、Ⅲ、自治行政政策論等とともに各業界・業種の理解を深め、さらにインターンシップに繋げることで自身のキャリア形成に役立てることができる。		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> <b>中間目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問屋町の歴史、目的、事業、成果などの概要を説明できる。</li> <li>・問屋町会員企業について、業種ごとの業務概要を説明できる。</li> </ul> <b>最終目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・流通業及び問屋町の役割を理解し、自身のキャリア形成に役立てる。</li> </ul>		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> 初年度のため該当なし。		
<b>〔教科書〕</b> 配布資料		
<b>〔指定図書〕</b> 特になし。		
<b>〔参考書〕</b> 問屋町ホームページ		
<b>〔前提科目〕</b> なし		
<b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b> 毎回の授業内レポート 10%×7回、最終レポート課題 30%		
<b>〔評価の基準及びスケール〕</b> 学生便覧の通り: A: 80%以上、B: 70%以上、C: 60%以上、D: 50%以上、F: 50%未満		
<b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b> 本科目は今年度が初年度となります。キャリア科目の講義として、普段みなさんが意識しない「流通業」について、実際に流通業を営む企業担当者と共に実学を中心に講義を行い、今後のキャリア形成にも役立つような授業を心掛けます。		

〔実務経歴〕 流通業ほか	
授業スケジュール	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): 問屋町とは 内 容: 問屋町の歴史・目的・事業、流通業などについて</p> <p>教科書・指定図書</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 卸業1 内 容: (食料・飲料)(医薬・化粧品)(身の回り・繊維・衣服)に関連する業種について学ぶ。 ※第2回～第6回は内容が入れ替わることがあります。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 卸業2 内 容: (機械・器具)(建築材料・鋳物)に関連する業種について学ぶ。 ※第2回～第6回は内容が入れ替わることがあります。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 卸業3 内 容: (日用雑貨・生活関連)(文具・事務機器)に関連する業種について学ぶ。 ※第2回～第6回は内容が入れ替わることがあります。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 卸業4 内 容: (運輸業)(サービス業)に関連する業種について学ぶ。 ※第2回～第6回は内容が入れ替わることがあります。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 卸業以外 内 容: (小売、冷熱機器、印刷、通信設備、建機レンタル等)に関連する業種について学ぶ。 ※第2回～第6回は内容が入れ替わることがあります。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 全体のまとめ 内 容: これまでの総括と、流通業の今後について考える。</p> <p>教科書・指定図書</p>
試験	課題レポートを課す

[科目名] 会社法1	[単位数] 2単位	[科目区分]
[担当者] 白石 智則	[オフィス・アワー] 時間: 場所:	[授業の方法] 講義
[科目の概要] 本講では、「会社法2」の講義とあわせて、「会社法」（平成17年法律第86号）が定める基本的な法制度（特に株式会社の設立・株式）について学びます。		
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか] いまの世の中、「会社」を経営したり、「会社」に就職したり、「会社」に投資したり、「会社」から商品を購入したりと、とにかく私たちは「会社」と関わらずに生きていくことはできません。会社法は、「会社」に関わるさまざまな関係者間の利害を調整する基本的なルールであり、これからの皆さんの生活とも深く関わります。		
[科目の到達目標(最終目標・中間目標)] 「会社法」の基本構造を理解し、会社法にかかわる様々な法律問題を考えることができる能力を身につけてもらいます。		
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] 講義のやり方について特に否定的な意見はなかったので、引き続きパワーポイントを利用して講義を行います。		

<p><b>〔教科書〕</b> なし（代わりに資料を配布します）</p>	
<p><b>〔指定図書〕</b> 中東正文ほか『会社法 有斐閣ストゥディア』（有斐閣、第2版、2021年発売予定）〔価格未定〕</p>	
<p><b>〔参考書〕</b> 江頭憲治郎『株式会社法』（有斐閣、第7版、2017年） 田中亘『会社法』（東京大学出版会、第3版、2021年） 岩原紳作＝神作裕之＝藤田知敬編『会社法判例百選』（有斐閣、第3版、2016年） そのほかの参考文献については、講義のときに紹介します。</p>	
<p><b>〔前提科目〕</b> なし</p>	
<p><b>〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）</b> 授業内試験（小テスト（20％）と最終試験（80％））により評価します。 小テストは、講義を2回行うごとに実施します（全7回）。授業を聞いていれば分かるような、簡単な選択問題を出题します。 最終試験では、基本的な知識を確認する選択式問題と、論述式問題を出题する予定です。成績評価の際に出席状況を加味することはありませんが、全講義の3分の2以上出席していない者は期末試験を受けられないので注意してください。</p>	
<p><b>〔評価の基準及びスケール〕</b> 原則として、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をC、50点以上をDとしますが、平均点しだいで基準点を調整します。</p>	
<p><b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b> 熱意をもって受講してくれることを期待します。</p>	
<p><b>〔実務経歴〕</b> なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 総論 (1) 内 容： 会社と企業、会社とは、会社法とは  教科書・指定図書 講義資料第1章の該当ページ</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 総論 (2) 内 容： 会社の種類、株式会社の特徴  教科書・指定図書 講義資料第1章の該当ページ</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 株式会社の機関 (1) 内 容： 機関とその設計  教科書・指定図書 講義資料第2章の該当ページ</p>

第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 株式会社の機関 (2)          内 容: 株主総会(1) [権限・招集・株主提案]</p> <p>教科書・指定図書 講義資料第2章の該当ページ</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 株式会社の機関 (3)          内 容: 株主総会(2) [議決権]</p> <p>教科書・指定図書 講義資料第2章の該当ページ</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 株式会社の機関 (4)          内 容: 株主総会(3) [議事と決議・決議の瑕疵]</p> <p>教科書・指定図書 講義資料第2章の該当ページ</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 株式会社の機関 (5)          内 容: 取締役・取締役会(1) [取締役の選任・取締役会の職務と運営]</p> <p>教科書・指定図書 講義資料第2章の該当ページ</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): 株式会社の機関 (6)          内 容: 取締役・取締役会(2) [代表取締役・取締役の義務]</p> <p>教科書・指定図書 講義資料第2章の該当ページ</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): 株式会社の機関 (7)          内 容: 取締役・代表取締役(3) [競業取引・利益相反取引・取締役の報酬]</p> <p>教科書・指定図書 講義資料第2章の該当ページ</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 株式会社の機関 (8)          内 容: 監査役等(1) [監査役]</p> <p>教科書・指定図書 講義資料第2章の該当ページ</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): 株式会社の機関 (9)          内 容: 監査役等(2) [監査役会・会計監査人・会計参与]</p> <p>教科書・指定図書 講義資料第2章の該当ページ</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): 株式会社の機関 (10)          内 容: 指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社</p> <p>教科書・指定図書 講義資料第2章の該当ページ</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): 株式会社の機関 (11)          内 容: 役員等の責任(1) [会社に対する責任・責任の免除]</p> <p>教科書・指定図書 講義資料第2章の該当ページ</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): 株式会社の機関 (12)          内 容: 役員等の責任(2) [株主代表訴訟・第三者に対する責任]</p> <p>教科書・指定図書 講義資料第2章の該当ページ</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): まとめ          内 容: 最終試験(授業内試験)とその解説</p> <p>教科書・指定図書 講義資料第2章の該当ページ</p>
試験	<p>第15回の講義の中で最終試験(授業内試験)を行います</p>

<b>〔科目名〕</b> 組織学習論	<b>〔単位数〕</b> 2 単位	<b>〔科目区分〕</b> 選択
<b>〔担当者〕</b> 丁 圏鎮	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> <b>場所:</b>	<b>〔授業の方法〕</b> 講義、演習
<b>〔科目の概要〕</b> <p>個人が試行錯誤を繰り返しながら成長するのと同じく、組織も様々な状況および環境の変化に適応・対応しながら発展していく。協働体系である組織が社会の構成要素としての役割を果たすことは、社会における組織の存在意義に他ならない。特に、現代社会が求めているのは個々の組織が発展することではなく、利害関係者を含む他の組織と協力し、価値を創造しながら共生できる「持続可能な発展」を実現することである。</p> <p>本科目の狙いは、様々な組織が社会のなかで共生しながら持続可能な発展を成し遂げるための「組織の役割(責任)」に関する施策を学習することにある。</p>		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・「なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつかか〕</b> <p>組織論をはじめ、経営戦略論、マーケティング論、会計学などの経営学科科目で学んだ知識を総合的に用いる。</p>		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> <p>中間目標: 第 I 部 組織における個人の役割: 知の創造 知識創造理論</p> <p>最終目標: 第 II 部 社会における組織の役割: 共通価値の創造 ビジネスモデル理論</p>		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム評価と個人評価との割合を調整した。</li> <li>・個人評価における適切な方法を工夫した。</li> </ul>		
<b>〔教科書〕</b> <p>なし。資料を配布する。</p>		
<b>〔指定図書〕</b> <p>丁 圏鎮 『組織設計と個人行動』【増補版】、文真堂、2020 年。 アレックス・オスターワルダー 偏著 関美和訳 『バリュー・プロポジション・デザイン』翔泳社、2015 年。</p>		
<b>〔参考書〕</b> <p>野中郁次郎・勝見明 『イノベーションの本質』、2004 年、日経 BP 社。 野中郁次郎・勝見明 『イノベーションの作法』、2007 年、日本経済新聞出版社。 野中郁次郎・勝見明 『イノベーションの知恵』、2010 年、日経 BP 社。 野中郁次郎・遠山亮子・平田透 『流れを経営する』、2010 年、東洋経済新報社。</p>		
<b>〔前提科目〕</b> <p>なし</p>		

<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業参加態度・成果発表 80 点(第 1 回 30 点、第2回 50 点)、筆記テスト 20 点</li> <li>・評価は、チーム評価を 6 割、個人評価を 4 割にする。</li> <li>・欠席者、遅刻者、授業態度不良者に減点あり。</li> </ul>	
<p>〔評価の基準及びスケール〕</p> <p>本学の成績評価基準に準じる。</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習(ワークショップ)形式の授業が多いため、<u>無断欠席を認めず、授業への積極的な参加を求める。</u></li> <li>・授業時間の他に、<u>情報収集や資料調査などの時間が必要とされる。</u></li> <li>・<u>4 年生の場合、上記の点を慎重に考えたうえで履修登録すること。</u> (レポートによる評価はなく、長期欠席も認めない)</li> </ul>	
<p>〔実務経歴〕</p> <p>該当なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第 1 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 授業の概要説明</p> <p>内 容:</p> <p>教科書・指定図書</p>
第 2 回	<p><b>第 I 部 組織における個人の役割：知の創造</b></p> <p>テーマ(何を学ぶか): 創造的リーダーの役割と能力(1)</p> <p>内 容: 事例から学ぶ</p> <p>教科書・指定図書</p>
第 3 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 創造的リーダーの役割と能力(2)</p> <p>内 容: 事例から学ぶ</p> <p>教科書・指定図書</p>
第 4 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 創造的リーダーの役割と能力(3)</p> <p>内 容: 事例から学ぶ</p> <p>教科書・指定図書</p>
第 5 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 「知の創造」の仕組み</p> <p>内 容: 知識創造理論</p> <p>教科書・指定図書</p>
第 6 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 「知の創造」理論の適用</p> <p>内 容: 知識創造理論</p> <p>教科書・指定図書</p>
第 7 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 第 1 回 成果発表(1)</p> <p>内 容: 成果発表会</p> <p>教科書・指定図書</p>

第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): 第1回 成果発表(2)</p> <p>内 容: 成果発表会</p> <p>教科書・指定図書</p>
第9回	<p><b>第Ⅱ部 社会における組織の役割：共通価値の創造</b></p> <p>テーマ(何を学ぶか): 組織の社会的責任</p> <p>内 容: CSR、CSV、ビジネスモデル</p> <p>教科書・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): Customer Profile</p> <p>内 容: 顧客分析</p> <p>教科書・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): Value Map</p> <p>内 容: 価値提供</p> <p>教科書・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): Business Model</p> <p>内 容: ビジネスモデルの仕組み</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): ビジネスモデルづくり</p> <p>内 容: 共通価値づくり</p> <p>教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): 第2回 成果発表(1)</p> <p>内 容: 成果発表会</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): 第2回 成果発表(2)</p> <p>内 容: 成果発表会</p> <p>教科書・指定図書</p>
試験	<p>期末試験</p> <p>筆記テスト</p> <p>内 容: 第Ⅰ部および第Ⅱ部の理論的内容</p> <p>教科書・指定図書</p>



<b>〔科目名〕</b> <p style="text-align: center;">監査論</p>	<b>〔単位数〕</b> <p style="text-align: center;">4単位</p>	<b>〔科目区分〕</b> <p style="text-align: center;">専門科目 展開科目</p>
<b>〔担当者〕</b> <p style="text-align: center;">紫関 正博 Shiseki Masahiro</p>	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> 授業の開始時に提示 <b>場所:</b> 研究室(512)	<b>〔授業の方法〕</b> <p style="text-align: center;">講義</p>
<b>〔科目の概要〕</b> <p>企業外部に情報を提供する側の企業の経営者は、投資家、株主、債権者、地方自治体などの企業の利害関係者に、企業の財務状況や経営状態を報告する。その際、企業は利害関係者に向けて、会計法規や会計基準に基づいて貸借対照表や損益計算書などの財務諸表を作成し、公表する。監査は、企業が作成した財務諸表の適切さを保証する役割を担っている。企業の利害関係者は、監査を介して初めて信頼できる企業の財務諸表を入手することができる。こうした財務諸表を監査対象とする監査(通常、「財務諸表監査」という)は、企業が財務諸表を正しく作成したかをチェックし、さらには、財務諸表を利用する投資家や株主等を保護することによって、証券市場の信頼性を確立する役割を担う社会制度となっている。</p> <p>監査(または財務諸表監査)制度は、会計の仕組みを通じて企業が公表した財務諸表が適切であるか、あるいは、適法であるかをチェックする社会制度の一構成要素である。しかし、こうした役割を監査が担っているにもかかわらず、なぜ粉飾決算が繰り返されるのかを想起しておく必要がある。その原因の1つは、現代の会計がフェア・バリュー(Fair Value)を導入し、会計に将来という概念が採用されることによって、財務諸表上で将来に関わる会計事象(会計の「用語」と「数値(金額)」)が含まれていることにあるように思われる。確かに、監査を実施することで、企業が会計法規や会計基準に基づいて適切な財務諸表を作成したかをチェックすることができるが、将来に関する会計事象(会計の「用語」と「数値(金額)」)に対してはどのように信用を与えればよいであろうか。現在、こうした問題が監査の領域で生じている。</p> <p>「監査論」の前半では、主として、日本の監査制度を中心に、監査の意義、財務諸表監査、法定監査制度(会社法監査制度、金融商品取引法監査制度)、監査基準などの各テーマを取り上げる。「監査論」の後半では、監査の実施と報告を中心として、監査とリスク、監査報告書、近年の監査に対する社会的要請に関するテーマを解説する。さらには、四半期レビュー制度、内部統制監査制度、公監査などの現代の監査制度上の諸問題も取り扱う。講義では、会計監査に関する具体的な事例についても取り上げる。</p>		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</b> <p>・他の科目との関連付け  「監査論」は、他の会計科目(会計学基礎論、財務会計論、財務分析Ⅰおよび財務分析Ⅱなど)と密接な関係がある。</p> <p>・学ぶ必要性と学ぶことの意義  いまや会計は、ビジネスの言語として、社会人にとって必須の知識となっている。監査についていえば、財務諸表監査の内容を理解することは、企業が公表する財務諸表が社会に果たす役割を再認識する上で有益である。また、主として上場企業に対する内部統制の実施が制度化されて以降、企業と監査の関わりが一層強まっている。このように、近年では特に、監査法人のみならず、財務諸表を作成する側の企業、さらには、財務諸表を学ぶ学生諸君にとっても、監査を十分に理解する必要性が高まっている。</p>		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> <p>(中間目標) 財務諸表監査に関わる諸問題、監査(制度)の意義を学び、あたかも受講者自らが公認会計士の職務に従事しているような意識を持ち、監査(制度)の社会的な役割を考えることにある。</p> <p>(最終目標) 公認会計士が行う監査プロセスを理解し、財務諸表監査と監査(制度)の意義を習得することにある。</p>		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> <p>マイクの音量の調節を行い、聞き取りやすく説明するように心掛け、板書の文字の大きさや仕方にも配慮します。また、レジュメについても再度見直し、一層分かりやすくするように努めます。レジュメや授業での説明を通して、要点をしっかりと伝えることを意識して授業を進めたいと考えています。</p>		

<p>〔教科書〕</p> <p>伊豫田隆俊・松本祥尚・林隆敏 著『ベーシック監査論(八訂版)』, 同文館出版, 2020年。</p>																					
<p>〔指定図書〕</p> <p>山浦久司 著『監査論テキスト[第7版]』, 中央経済社, 2019年。</p>																					
<p>〔参考書〕</p> <p>長吉眞一・伊藤龍峰・北山久恵・井上善弘・岸牧人・異島須賀子 著『監査論入門(第4版)』, 中央経済社, 2019年。  蟹江章・藤岡英治・高原利栄子 著『わしづかみシリーズ 監査論を学ぶ[第3版]』, 税務経理協会, 2020年。</p>																					
<p>〔前提科目〕</p> <p>前提科目はなし。「会計学基礎論」, 「財務会計論」(できれば他の会計科目も)を履修していることが望ましい。</p>																					
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <p>・複数回(5~10回程度を予定), 小課題を提出してもらおう。期末試験の他に, 授業中に小テストを行う。<u>小テストの実施日は, 授業内および掲示で伝達するので, 注意すること。</u></p>																					
<p>〔評価の基準及びスケール〕</p> <p>・小課題(10%), 小テスト(30%), 期末試験(60%)によって, 評価する。</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>(評価)</td> <td>A: 80%以上</td> <td>GPA</td> <td>4.00</td> </tr> <tr> <td></td> <td>B: 70%~80%未満</td> <td></td> <td>3.00</td> </tr> <tr> <td></td> <td>C: 60%~70%未満</td> <td></td> <td>2.00</td> </tr> <tr> <td></td> <td>D: 50%~60%未満</td> <td></td> <td>1.00</td> </tr> <tr> <td></td> <td>F: 50%未満</td> <td></td> <td>0.00</td> </tr> </table>		(評価)	A: 80%以上	GPA	4.00		B: 70%~80%未満		3.00		C: 60%~70%未満		2.00		D: 50%~60%未満		1.00		F: 50%未満		0.00
(評価)	A: 80%以上	GPA	4.00																		
	B: 70%~80%未満		3.00																		
	C: 60%~70%未満		2.00																		
	D: 50%~60%未満		1.00																		
	F: 50%未満		0.00																		
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <p>・初回の授業の際に, 評価方法などの詳細を説明するので, <u>必ず出席すること。</u></p> <p>・受講生の学習理解度, 授業の状況などにより, 授業スケジュールに変更が生じる場合もある。</p> <p>・「監査論」の講義では, 受講者自らが「公認会計士」の職務を担当しているかのような意識を持って監査(制度)の社会的な役割や機能を学習してもらいたい。</p> <p>・考えることと同時に, 覚える事柄も多くあるので, 予習と復習をして授業に臨むこと。予習の際には, 教科書を十分に読み, 授業にしっかり出席すること。</p> <p>・他の学生の迷惑になる行為はくれぐれも慎むこと。まず注意をするが, ひどい場合には, 特に厳しく対処する。</p>																					
<p>〔実務経歴〕</p> <p>該当なし。</p>																					
<p>授業スケジュール</p>																					
<p>第1回</p>	<p>テーマ(何を学ぶか): 監査とは何か①  内容: 監査の意義と必要性  教科書 第1章, 講義レジュメ</p>																				

第2回	テーマ(何を学ぶか):監査とは何か② 内 容:監査の生成要因と監査の種類 教科書 第1章, 講義レジュメ
第3回	テーマ(何を学ぶか):監査のフレームワーク① 内 容:会計ディスクロージャーと財務諸表監査 教科書 第1章, 講義レジュメ
第4回	テーマ(何を学ぶか):監査のフレームワーク② 内 容:財務諸表監査の特質 教科書 第1章, 講義レジュメ
第5回	テーマ(何を学ぶか):監査のフレームワーク③ 内 容:監査の経済的機能, 市場と組織における監査の役立ち 教科書 第1章, 講義レジュメ
第6回	テーマ(何を学ぶか):監査制度① 内 容:イギリスの監査制度の生成と展開 教科書 第2章, 講義レジュメ
第7回	テーマ(何を学ぶか):監査制度② 内 容:アメリカの監査制度の生成と展開 教科書 第2章, 講義レジュメ
第8回	テーマ(何を学ぶか):監査制度③ 内 容:日本の監査制度の生成と展開 教科書 第2章, 講義レジュメ
第9回	テーマ(何を学ぶか):監査制度④ 内 容:会社法監査制度 教科書 第2章, 講義レジュメ
第10回	テーマ(何を学ぶか):監査制度⑤ 内 容:金融商品取引法監査制度 教科書 第2章, 講義レジュメ
第11回	テーマ(何を学ぶか):監査制度⑥ 内 容:公認会計士法の意義と内容 教科書 第2章, 講義レジュメ
第12回	テーマ(何を学ぶか):監査規範と監査基準① 内 容:監査規範の意義, アメリカの監査基準の生成と展開 教科書 第3章, 講義レジュメ
第13回	テーマ(何を学ぶか):監査規範と監査基準② 内 容:日本の監査基準の生成と展開(1) 教科書 第3章, 講義レジュメ
第14回	テーマ(何を学ぶか):監査規範と監査基準③ 内 容:日本の監査基準の生成と展開(2), 近年の監査基準の改訂 教科書 第3章, 講義レジュメ
第15回	テーマ(何を学ぶか):前半の総復習 内 容:前半の講義内容の総括, 小テストの実施 教科書, 講義レジュメ
第16回	テーマ(何を学ぶか):監査意見形成のプロセス① 内 容:監査プロセス, 財務諸表監査における要証命題, 経営者の主張 教科書 第4章, 講義レジュメ

第17回	<p>テーマ(何を学ぶか): 監査意見形成のプロセス②</p> <p>内 容: 監査要点, 監査証拠, 監査手続, 試査</p> <p>教科書 第4章, 講義レジュメ</p>
第18回	<p>テーマ(何を学ぶか): 監査リスク・アプローチと監査戦略①</p> <p>内 容: 監査リスク・アプローチの意義, 監査リスク, 監査リスクの構成要素</p> <p>教科書 第5章, 講義レジュメ</p>
第19回	<p>テーマ(何を学ぶか): 監査リスク・アプローチと監査戦略②</p> <p>内 容: 監査上の重要性, 監査リスク・アプローチの全体像</p> <p>教科書 第5章, 講義レジュメ</p>
第20回	<p>テーマ(何を学ぶか): 監査リスク・アプローチと監査戦略③</p> <p>内 容: 監査戦略と監査計画</p> <p>教科書 第5章, 講義レジュメ</p>
第21回	<p>テーマ(何を学ぶか): リスク評価, リスク対応および監査の完了①</p> <p>内 容: 企業および企業環境の理解, 内部統制</p> <p>教科書 第6章, 講義レジュメ</p>
第22回	<p>テーマ(何を学ぶか): リスク評価, リスク対応および監査の完了②</p> <p>内 容: 重要な虚偽表示のリスク, 不正リスク, 監査手続の完了と監査意見の形成</p> <p>教科書 第6章, 講義レジュメ</p>
第23回	<p>テーマ(何を学ぶか): 監査報告書と情報提供機能①</p> <p>内 容: 監査報告書の意義と種類, 監査報告書の構造, 監査意見の移行形態</p> <p>教科書 第7章, 講義レジュメ</p>
第24回	<p>テーマ(何を学ぶか): 監査報告書と情報提供機能②</p> <p>内 容: 追記情報, 監査目的と監査対象の多様化</p> <p>教科書 第7章, 講義レジュメ</p>
第25回	<p>テーマ(何を学ぶか): 開示情報の多様化と保証機能①</p> <p>内 容: 四半期レビュー制度(1)</p> <p>教科書 第8章, 講義レジュメ</p>
第26回	<p>テーマ(何を学ぶか): 開示情報の多様化と保証機能②</p> <p>内 容: 四半期レビュー制度(2)</p> <p>教科書 第8章, 講義レジュメ</p>
第27回	<p>テーマ(何を学ぶか): 開示情報の多様化と保証機能③</p> <p>内 容: 内部統制監査制度</p> <p>教科書 第8章, 講義レジュメ</p>
第28回	<p>テーマ(何を学ぶか): 公監査</p> <p>内 容: 会計検査院による監査, 地方自治体監査制度</p> <p>講義レジュメ</p>
第29回	<p>テーマ(何を学ぶか): 現代の会計と監査, 会計監査のケース・スタディ</p> <p>内 容: 現代における会計と監査の特徴, 会計監査に関する事例</p> <p>講義レジュメ</p>
第30回	<p>テーマ(何を学ぶか): 総復習</p> <p>内 容: 講義内容の総括</p> <p>教科書, 講義レジュメ</p>
試験	筆記試験の実施

<b>〔科目名〕</b> <p style="text-align: center;"><b>税 務 会 計 I</b></p>	<b>〔単位数〕</b> 2単位	<b>〔科目区分〕</b> 経営学科 選択科目
<b>〔担当者〕</b> 金子輝雄 teruo KANEKO	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> ドアに掲示 <b>場所:</b> 研究室 513	<b>〔授業の方法〕</b> 講義
<b>〔科目の概要〕</b> <p>「所得税法」について学修します。初めに租税の概要を説明し、所得税のポジションを確認したうえで、徐々に本題に入っていきます。適宜、租税の歴史や、租税の基本原則、税務裁判事例を紹介し、単なる計算ではなく、租税法というものを意識して展開していきたいと考えています。</p> <p>ところで、税の問題は、課税要件の認定といった法的な観点、国・地方自治体の財政といった財政的観点、所得の再分配といった経済政策的な観点など、いくつかの角度から検討することができますが、ここでは納税者が実際に行う手続きである課税標準の計算から納税に至るまでの計算手続、すなわち、税務会計の観点から学んでいきます。</p> <p>わが国では約50種類に及ぶ税がありますが、企業経営との係わりでいえば申告納税方式がとられている「法人税法」・「所得税法」が重要です。納税ということに関して、かつて、わが国の多くの企業の対応は事後的・消極的な感がありましたが、最近では米国企業のように、経営意思決定に税の要素を取り入れて事前的・積極的な対応(タックス・プランニング)をとる企業も増えてきました。とはいえ、法人税法は複雑難解であり、かなりの専門的・段階的な学修を必要としますので、この講座では、特に、同じ所得課税の税目であり、また法人税法のベースにもなっている「所得税法」の理解・修得に主眼を置いていきたいと思います。</p>		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか〕</b> <p>会計学基礎論で学んだ会計処理の意味が理解できます。基礎的な簿記は所得税法(事業所得計算)を前提としているからです。また、財務会計論の税効果会計は法人税法を前提としています。</p> <p>秋学期に開校される「税務会計Ⅱ」と併せて連続受講していただきたいと思います。税務会計Ⅱではもっぱら法人税法を取り上げますが、法人税法は企業会計や企業経営とのかかわりが深く、所得税法に比べて非常に複雑難解です。そのため、税務会計Ⅰでは、初めに、税法入門の内容から始め、次に所得税法における課税標準と納付税額の計算を通じて所得課税の仕組みを学びます。最後に、時間の許す範囲で、企業の税務会計で法人税法と並んで重要な消費税法を取り上げる予定です。このようにして、法人税法をなるべく理解しやすくするための準備を行っていきます。</p> <p>もちろん、「税務会計Ⅰ」でしっかり学んでいただければ、「個人所得税の確定申告」が自分自身で出来るようになりますし、タックス・プランニングについて学び、さらには所得課税のあり方を考える機会となるでしょう。</p>		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>(中間目標) 全国経理学校協会主催「税務会計検定試験(所得税法)」1～3級の合格。税理士試験の「所得税法」に向けた基礎的理解。「ファイナンシャル・プランニング技能士」試験のタックス・プランニングへの対応  &lt;毎年、数名のFP試験の合格者が出ています。&gt;</li> <li>(最終目標) 学説や判例を交えて法的な観点から租税法というものを考えてもらう。</li> </ol>		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> <p>数名ですが、「練習問題を解く時間を多くとってほしい。解説を丁寧にやってほしい。」という要望が見られます。個人差があるように思いますが、なるべく配慮いたします。</p>		
<b>〔教科書〕</b> 全国経理学校協会編『演習 所得税法 <最新版>』清文社 *事業所得の計算における引当金や減価償却の項目は「税務会計Ⅱ」で取り上げます。		

〔指定図書〕 なし	
〔参考書〕 適宜紹介する	
〔前提科目〕 会計学基礎論を習得していること。憲法や民法を学んだことがあればなおよい。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)  重要な用語・計算の確認のため、毎回、出席カードを配布します(適宜、カードに疑問点や要望があれば書いてください)。  レポート課題:税務会計検定試験の過去問等  期末試験:税務会計検定試験の所得税法2・3級程度<教科書の持ち込み可>	
〔評価の基準及びスケール〕 期末試験の得点を重視しますが、レポート課題の状況も加味します。 A:100～80 B: 79～70 C: 69～60 D: 59～50 F: 49～ 0	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕  教科書の章末や巻末の練習問題に取り組みましょう。	
〔実務経歴〕 銀行業及び税理士事務所での実務経験を活かし、複雑化する税制と企業活動の係わりを学び、税務会計及び税法学の理解を深める授業です。	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか):ガイダンスと税金の制度 内 容: 税金の意義・根拠・目的・分類、納税の義務  教科書・指定図書 プリント
第2回	テーマ(何を学ぶか):租税法の基本原則 内 容: 租税法律主義と課税の公平性  教科書・指定図書
第3回	テーマ(何を学ぶか):所得税の概要 内 容: 所得税とは、納税義務者、所得の帰属等  教科書・指定図書 第1・2章
第4回	テーマ(何を学ぶか):利子所得・配当所得 内 容:利子所得および配当所得の意義と金額の計算方法  教科書・指定図書 第3・4章

第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):不動産所得 内 容:不動産所得の意義と金額の計算方法</p> <p>教科書・指定図書 第5章</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):事業所得① 内 容:事業所得の意義、金額の計算、収入金額</p> <p>教科書・指定図書 第6章</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):事業所得② 内 容:必要経費、棚卸資産</p> <p>教科書・指定図書 第6章</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):事業所得③ 内 容:事業所得およびこれまで見てきた内容の計算演習</p> <p>教科書・指定図書 第6章</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):給与所得 内 容:概要と計算式</p> <p>教科書・指定図書 第7章</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):退職所得と山林所得 内 容:分離課税と5分5乗方式</p> <p>教科書・指定図書 第8・9章</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):譲渡所得・一時所得・雑所得 内 容:譲渡所得の概要と計算式</p> <p>教科書・指定図書 第10・11・12章</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):損益通算 内 容:損益通算と損失の繰り越し控除</p> <p>教科書・指定図書 第13章</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):所得控除 内 容:各種所得控除制度の内容</p> <p>教科書・指定図書 第14章</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):納付税額の計算 内 容:課税所得金額と納付税額の計算</p> <p>教科書・指定図書 第15・16章</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):租税の確定手続と全体のまとめ 内 容:申告納税制度と不服申立制度についてと総合問題演習</p> <p>教科書・指定図書 プリントおよび教科書の総合問題</p>
定期試験	

<b>〔科目名〕</b> <b>商業実習</b>	<b>〔単位数〕</b> <b>4単位</b>	<b>〔科目区分〕</b> <b>教職課程</b>
<b>〔担当者〕</b> 砂場 孝一郎 Sunaba koitiro	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間</b> ：金曜日が勤務日 昼食時間は対応可能 <b>場所</b> ：5階の非常勤講師控え室	<b>〔授業の方法〕</b> 講義 演習
<b>〔科目の概要〕</b> <p>この科目は、商業科教師を育成する教職課程の選択科目である。そして、受講する学生には、教科「商業」の高校教師を目指すことを前提として学んで欲しい。授業内容は、教師として、高校生を商業に関する将来のスペシャリストに育成するという観点から、専門分野の基礎的・基本的な知識・技術及び技能を身につけるための科目である。</p> <p>受講する学生は、社会に生き、社会的責任を担う職業人としての規範意識や倫理観などを醸成し、豊かな人間性の涵養などにも配慮した教育を行うため、新たに求められる教育内容・方法を理解しなければならない。</p> <p>現行の学習指導要領に示されたマーケティング分野・ビジネス経済分野・会計分野・ビジネス情報分野の計20科目は、2013年度入学生から学年進行によって実施され、2016年3月に一巡し、商業の科目として定着した。なお、文部科学省は、2018年に、2022年度から年次進行で実施する次期高校学習指導要領を発表した。この新しい商業教育の内容・方向性を中心に受講する学生に伝えていきたい。</p>		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</b> <p>高等学校商業科教員免許取得のためには、本科目の履修が有効となる。</p> <p>商業高校生の進路は、かつての就職中心から、近年では進学希望者も増加し、年々多様化してきている。</p> <p>このような商業教育を学ぶ高校生の変容を考慮した上で、商業教育の意義や教科・学科の特色、指導上の留意点などについて、教育現場での現実の課題や問題点を意識しながら、実践的な理解を深めることにより、商業科教師としての基本的な資質を身につけるために学ぶ科目である。</p> <p>また、教育改革などにより、学校教育は日々変遷してきていることから、教育法規をもとに商業教育の主要な動向等についても理解させる。</p>		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> <p>商業科教師には、次の3つのことが求められ、この科目の目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 商業科教師には、商業を学ぶ高校生に、商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、ビジネスに対する望ましい心構えや理念を身につけさせ、ビジネスの諸活動を主体的、合理的に行うための指導力が求められる。</li> <li>② 次に商業科教師には、高校生を望ましい人間関係・社会性・倫理観などの豊かな人間性、主体性、自己責任の観念、独創性などを育成する、人としての資質が求められる。</li> <li>③ そのために、商業科教師には、企業経営に対する正しい考え方や、ビジネスの諸活動における豊かなコミュニケーション能力を資質として有することが求められる。</li> </ol> <p>この科目は、以上の目標を達成するための科目である。</p>		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> <p>学生の「授業評価」は、担当教員の総括の基本であり、真摯に向き合いたいと思っている。</p> <p>学生が「中等教科教育法 商業Ⅰ・商業Ⅱ」で経験する模擬授業において、その基本的な能力・技術・意欲がこの科目で培われるようにしていきたい。また、学生の持つ課題を、プレゼンテーションを通して解決を試みることも実施する。さらに、ビジネスマナーについても授業の中で身につけさせるようにする。</p>		



<p><b>〔教科書〕</b></p> <p>購入不要である。 必要に応じて、新学習指導要領等の資料を授業担当者が配賦する。</p>	
<p><b>〔指定図書〕</b></p> <p>「21世紀の商業教育を創造する」 日本商業教育学会 編 実教出版  ※この図書は、中等教科教育法(商業 I)のシラバスにも記載し、要望している。</p>	
<p><b>〔参考書〕</b></p> <p>なし。</p>	
<p><b>〔前提科目〕</b></p> <p>なし。</p>	
<p><b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b></p> <p>学修の課題は、高校教師としての資質を身に付けることである。  評価の方法は、①課題のレポート提出(2回予定)、②筆記小テスト(授業内で2回予定)、③プレゼンテーションの実施、④授業への参加・貢献 を通して、学習意欲の有無を判断し、絶対評価(100点法)を行い、それを本学の定める方法に従い、総合的な評定(A・B・C・D・F)を行う。</p>	
<p><b>〔評価の基準及びスケール〕</b></p> <p>評価基準は、本学が定めている方法に従って行う。基準とスケールは次の通りである。  A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(50点以上) F(50点未満)  評価の観点は、知識・思考・判断・表現・学修に取り組む姿勢などである。  数値化の難しい観点もあるが、教職課程の科目であることから、敢えて観点としたい。</p>	
<p><b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b></p> <p>現行学習指導要領は、2013年度から始まった。マーケティング、ビジネス経済、会計、ビジネス情報の各分野の20科目は、商業科目として定着し、時代の要請に応えながら学ばれている。よって、商業科教師を目指す学生に、それぞれの科目の目標・指導内容などを理解し、商業教育の指導実践力が身に付くように授業を展開する。  また、文部科学省は、2018年に、2022年度から実施される新学習指導要領を公表した。そのために、担当教員として、学生に講義する教材を十分に吟味して、新しい商業教育の方向性を示し、指導技術や指導方法などを身に付けるための授業を展開したい。学生には、意欲を持ち、真剣に授業に望んで欲しい。特に、板書した内容をノートに記述し、学生自らも板書技術を磨いて欲しい。</p>	
<p><b>〔実務経歴〕</b></p> <p>該当なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか)：オリエンテーション  内 容：講義の目的と内容、進め方、評価の方法について</p> <p>教員作成のレジュメ、資料による</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか)：売買取引の方法(関連法規と商慣習)  内 容：売買条件(商品の品質・数量・価格)</p> <p>教員作成のレジュメ、資料による</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか)：売買取引の方法(関連法規と商慣習)  内 容：売買条件(受け渡し時期・受け渡し場所・代金の受払方法)</p> <p>教員作成のレジュメ、資料による</p>

第4回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 売買取引の方法( 関連法規と商慣習 )</p> <p>内 容： 売買契約の締結(見積り・注文)</p> <p>教員作成のレジュメ、資料による</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 売買取引の方法( 関連法規と商慣習 )</p> <p>内 容： 売買契約の履行(商品の受け渡し・代金決済・電子記録債権・債務)</p> <p>教員作成のレジュメ、資料による</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 売買取引の方法( 関連法規と商慣習 )</p> <p>内 容： 代金決済(通貨・小切手・約束手形・その他)</p> <p>教員作成のレジュメ、資料による</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか)： ビジネス計算の基礎</p> <p>内 容： 度量衡・外国貨幣・割合</p> <p>教員作成のレジュメ、資料による</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか)： ビジネス計算の基礎</p> <p>内 容： 割り増し・割引・商品の数量と代金の計算・消費税</p> <p>教員作成のレジュメ、資料による</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか)： ビジネス計算の基礎</p> <p>内 容： 仕入原価の計算・販売価格の計算・売価の計算・売買損益の計算</p> <p>教員作成のレジュメ、資料による</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか)： ビジネス計算の基礎</p> <p>内 容： 利息の計算・日数計算</p> <p>教員作成のレジュメ、資料による</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか)： ビジネスとコミュニケーション</p> <p>内 容： ビジネスに対する心構え</p> <p>教員作成のレジュメ、資料による</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか)： ビジネスとコミュニケーション</p> <p>内 容： 学生によるプレゼンテーション( 経営経済の時事的なことを主なテーマとする )</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか)： ビジネスとコミュニケーション</p> <p>内 容： 基礎的なビジネスマナー( 挨拶・身だしなみ・話の聞き方・話し方・電話応対)</p> <p>教員作成のレジュメ、資料による</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか)： ビジネスとコミュニケーション</p> <p>内 容： 良好な人間 関係と企業内コミュニケーション</p> <p>教員作成のレジュメ、資料による</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか)： ビジネスとコミュニケーション</p> <p>内 容： 人間 関係の重要性 ※筆記小テスト(1回目)</p> <p>教員作成のレジュメ、資料による</p>
第16回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 企業活動の基礎</p> <p>内 容： 企業の形態と経営組織(1)</p> <p>教員作成のレジュメ、資料による</p>
第17回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 企業活動の基礎</p> <p>内 容： 企業の形態と経営組織(2)</p> <p>教員作成のレジュメ、資料による</p>

第18回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 企業活動の基礎</p> <p>内 容 : 学生によるプレゼンテーション(企業ガバナンスを主なテーマとする)</p> <p>教員作成のレジュメ、資料による</p>
第19回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 企業活動の基礎</p> <p>内 容 : 学生によるプレゼンテーション(企業ガバナンスを主なテーマとする)</p> <p>教員作成のレジュメ、資料による</p>
第20回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 企業活動の基礎</p> <p>内 容 : 企業活動と税</p> <p>教員作成のレジュメ、資料による</p>
第21回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 企業活動の基礎</p> <p>内 容 : 雇 用</p> <p>教員作成のレジュメ、資料による</p>
第22回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 経済社会と法</p> <p>内 容 : 法の意義と役割</p> <p>教員作成のレジュメ、資料による</p>
第23回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 権利・義務と財産権</p> <p>内 容 : 権利と義務、物権と債権</p> <p>教員作成のレジュメ、資料による</p>
第24回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 権利・義務と財産権</p> <p>内 容 : 知的財産権</p> <p>教員作成のレジュメ、資料による</p>
第25回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 取引に関する法</p> <p>内 容 : 契約と意思表示、売買契約と賃借契約</p> <p>教員作成のレジュメ、資料による</p>
第26回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 取引に関する法</p> <p>内 容 : 債権の管理と回収、金融取引</p> <p>教員作成のレジュメ、資料による</p>
第27回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 企業の責任と法</p> <p>内 容 : 法令遵守、紛争の予防と解決</p> <p>教員作成のレジュメ、資料による</p>
第28回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 企業の責任と法</p> <p>内 容 : 消費者保護</p> <p>教員作成のレジュメ、資料による</p>
第29回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 商業教育の現状と課題</p> <p>内 容 : 高等学校の生徒数減少と学校の統廃合、商業に関する学科の卒業生の進路 新学習指導要領の方向性について</p> <p>教員作成のレジュメ、資料による</p>
第30回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 商業科教員になるには</p> <p>内 容 : 商業科教員に必要な資質・能力と教員の働き方 ※筆記小テスト(2回目)</p> <p>教員作成のレジュメ、資料による</p>
試 験	<p>授業の中で、筆記小テストを2回(15回目・30回目)実施する。</p>

<b>〔科目名〕</b> 地域企業論 I	<b>〔単位数〕</b> 2 単位	<b>〔科目区分〕</b>
<b>〔担当者〕</b> 生田 泰亮 IKUTA Yasuaki	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> メールか直接アポイントメントを <b>場所:</b> 1305 研究室	<b>〔授業の方法〕</b> 講義
<b>〔科目の概要〕</b> <p>「地域に根ざした企業の経営を学ぶ」が本講義のテーマである。地域企業論 I では「地域と企業の基本的関係」「企業の構造と機能」「地域の産業構造と事業戦略」を理解するための基本的な概念枠組を学ぶ。また事例を紹介しながら「地域で企業を経営する」ための基礎的な知識や理論、昨今の地域と企業に関する動向を学ぶ。</p>		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか〕</b> <p>複眼的思考を身につけなければ、地域のビジネス・リーダー、コミュニティ・リーダーとして活躍することは難しい。本講義は、1年次で学んだ内容を基本としつつ、多くの選択必修科目と関連性のある「総合的な科目」「中核的な科目」であると認識してほしい。本講義で新たな知見を得るとともに、これまで学んだ講義の復習であり、これから学ぶ講義にとっては予習となることが多々あるだろう。関連づけ、反復することで「有効な思考法」として身につく。</p>		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> 地域企業論 I, II の両講義を通じて、以下のような目標とする。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 地域の経済、産業、市場、企業の動向を理解するための専門用語を理解し「基礎知識」を身につける。</li> <li>(2) 地域企業がおかれた社会、市場、産業などの「環境分析」のための基本的な理論を身につける。</li> <li>(3) 地域企業の経営政策、事業戦略についてケース・スタディを行い、その成果として「問題解決策の立案」としての「戦略策定」や「政策提言」ができる。</li> </ol>		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> <p>「説明がわかりやすい」「質の高い講義内容」といった高い評価が多数ある反面、少数ながらも様々な意見もありました。履修されるか否かは、講義の内容、進め方、評価方法等について、初回の講義で説明しますので、ご理解いただいた上で決めてください。受講態度の悪い学生、周囲の迷惑になるような行為には厳しく対処します。</p>		
<b>〔教科書〕</b> ・なし。毎回資料を配布。		
<b>〔指定図書〕</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三戸浩、池内秀己、勝部伸夫『ひとりで学べる経営学（補訂版）』文真堂、2012年。</li> <li>・塩次喜代明、高橋伸夫、小林敏男『経営管理〔新版〕』有斐閣、2009年。</li> <li>・M.E.ポーター著、竹内弘高訳『競争戦略論（I）（II）』ダイヤモンド社、1999年。</li> <li>・O.E.ウィリアムソン著、浅沼万里、岩崎晃訳『市場と企業組織』日本評論社、1980年。</li> </ul> その他、適宜指示、紹介する。		
<b>〔参考書〕</b>		
<b>〔前提科目〕</b> <p>「経営学基礎論」を履修し、単位取得していること。また「有効な思考法」を身につけるためには、経済学、財務分析などの基礎知識も必要となる。関連する科目を履修している、あるいは今後の履修科目について計画的に考えたうえで、履修することを強く推奨する。特に秋学期の地域企業論 II を受講することも念頭に本科目を受講することを強く推奨する。</p>		

<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <p>理解度テスト (10%)          課題レポート (40%) 複数回実施する予定。詳細は講義内で説明する。          学期末の定期試験 (50%)          ※講義進行の妨げとなる行為があり、注意を聞き入れない場合は、当該学生の本科目の評価を「F」とする。          無断欠席や課題レポートの未提出については、評価において大幅に減点する。</p>	
<p>〔評価の基準及びスケール〕</p> <p>80%以上 A      79-70% B      69-60% C      59-50% D      49%以下 F</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <p>ポイントを絞りつつも他の科目との関連性をしっかりと解説し、他の専門科目を深く学ぶ動機づけになるように心がけたい。毎回のテーマ、キーワード、問いやトピックに対して、疑問を持って講義に臨んでほしい。</p> <p>秋学期の地域企業論Ⅱでは『中小企業白書』を取り上げ、統計データの分析、地域における企業経営に関するケース・スタディ等を行う。こうしたことを通じて、地域企業を取り巻く環境分析、最新の動向を読みとく力、企業経営における戦略策定、地域産業への政策提言を行う力を身につけることを期待している。そのためには、地域企業論Ⅰでの学習内容が基礎となるので、この点も留意して履修してほしい。</p>	
<p>〔実務経歴〕</p> <p>該当なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ (何を学ぶか) : イントロダクション          内 容 : 講義内容と進め方について          (※講義についての説明を行うのでシラバス持参のこと)</p>
第2回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 現代社会における地域と企業 (1) 現状と課題の概観          内 容 : 地域社会に与える企業の影響を考える。          なぜ、ねぶた祭りに企業は協賛するのか?</p>
第3回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 現代社会における地域と企業 (2) 基本概念の整理          内 容 : 経営経済学的な「地域社会」の理解 (地域、市場、産業、政府・自治体、企業、個人)</p>
第4回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 地域社会と企業 (1) 地方と都市と企業の歴史的考察          内 容 : 農村社会と近代都市、工業都市をキーワードに          コミュニティとアソシエーション、2つの原理とその重層性について学ぶ</p>
第5回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 地域社会と企業 (2) われわれの生活と地域、企業          内 容 : 人口問題を中心に地域社会と企業の間関係を考える。「極点化社会」「表日本と裏日本」</p>
第6回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 地域社会と企業 (3) 現代のコミュニティ問題と地域企業          内 容 : 労働、雇用機会の変容、地域社会を支える企業、業種転換・市場拡大を試みる中小企業</p>
第7回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 理解度テストと前半のまとめ          内 容 : 講義時間内に基礎知識の定着のために理解度テストを実施する。前半のまとめを行う。</p>

第8回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 企業の構造と機能 (1) 企業の成長・発展段階、企業の存在意義の変容</p> <p>内 容 : 経営体として企業を理解するための基礎的概念(企業、経営、事業)を学ぶ</p>
第9回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 企業の構造と機能 (2) 様々な企業観と企業の種類</p> <p>内 容 : 経済学的、経営学的な企業観、法的制度としての企業、その種類について学ぶ</p>
第10回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 企業の構造と機能 (3) 利益から考える企業の存在意義</p> <p>内 容 : 財務会計学的な企業理解、「利益」の現代的意義(マルクス、ウェーバー、ドラッカー)</p>
第11回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 事業論 (1) 資源、技術、商品、市場からの環境分析</p> <p>内 容 : 経営資源や技術、商品、市場の観点から事業を考える。</p>
第12回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 事業論 (2) 産業の立地条件</p> <p>内 容 : M.E.ポーターの理論を中心に、競争要因、競争優位性、産業の立地条件を学ぶ。</p>
第13回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 事業論 (3) 企業間関係論、戦略的提携の視点</p> <p>内 容 : 産業構造を理解するために、組織間関係の理論 (企業集団、系列化、戦略的提携) を学ぶ。</p>
第14回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 事業論 (4) 競争のない新たな市場開拓 ブルー・オーシャン戦略</p> <p>内 容 : 競争市場から独自の新たな市場空間を目指すための諸概念を学ぶ。</p>
第15回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 春学期全体の振り返りとまとめ、秋学期に向けての課題</p> <p>内 容 :</p>
試験	

<b>〔科目名〕</b> 地域社会論 I	<b>〔単位数〕</b> 2 単位	<b>〔科目区分〕</b>
<b>〔担当者〕</b> 佐々木 てる	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> 授業開始時に指示 <b>場所:</b> 授業開始時に指示	<b>〔授業の方法〕</b> 講義
<b>〔科目の概要〕</b> <p>青森県に限らず、人口減少地域においては観光を中心とした「交流人口」を増加させるための、取り組みや企画が考えられている。その中でも特に、各地方地域には独自の祭礼(都市型の祭り)が存在し、それを通じた観光客の誘致を行っている。その経済効果は地域 GDP の数%に上ることもあり、地域にとってはかかせない資源となっている。</p> <p>青森市に関してはいえば、それは「ねぶた祭」であり、この祭りでは毎年のおとずれている。ではこうした祭りはいかに創りあげられているのか。そしてどのような歴史を持つのか。さらに地域市民はどのように祭りにかかわっているのか。これらの問いについて解説することを通じて、地域社会そのものの仕組みを理解していくこととする。</p> <p>本講義では「ねぶた祭」を通じて、文化伝統の創出や継承、人口減少対策、経済効果、日常文化の再生産といった地域の様々な側面をみていくこととする。</p>		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</b> <p>青森県に限らず、自分が住んでいる地域の「市民」としての意識を持ち、現在指摘されている問題が自分の将来、そして自分の家族にとってどのような意味を持つのか、そして問題の解決策を考えるのは学生にとって非常に重要なことである。これは学科を問わず、個々人が考える必要があるだろう。</p> <p>こうした理解から、この講義での具体的な内容は、将来就職した後に、新しいアイデアをより専門的で、地元根付いた視点から提出するとき役に立つといえる。特に人口減少と観光を結びつけて考える上では必須の講義となる。具体的な事例を他の事例と比較しつつ、普遍的な考えを学ぶことによって、将来的にはワールドワイドな視点に生かすこともできようになるだろう。</p> <p>扱うテーマは青森県、青森市ではあるが、それを比較社会的な視点から分析することを学ぶことで、様々な応用が可能になる。なお考え方の基本は社会学的な発想を基本としているため、教養科目「社会と人間」を受講していることが望ましい。</p>		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> <p>最終目標: 地域における問題、課題を自ら発見し、提出し、それに対する解決策を提示できるような思考を養う。特に、人口減少対策としての自分なりにチャレンジしたいことを、具体的な祭りやイベントを通じて行う思考実験のレベルで提出していくこと。また青森県の事例のほかにも、自分なりに同様の事例を見つけ、自ら分析できる力を養うこと。</p> <p>中間目標: 身の回りの文化や資源について「何」があるのか、もう一度気づくことができるようになること。そしてその資源を生かす思考を作ること。なお特に前半は理論的な視座を理解することが最初の目標となる。具体的には伝統の構築、文化人類学的な祭礼研究、社会学的な地域社会学的な視点である。</p>		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> <p>授業のテーマ、内容について、本年度も第一回の授業の際にテーマについてしっかり説明する。そのため第一回目の授業に受講予定者は必ず出席し、講義内容を確認することを義務付ける。そのうえで受講するかどうかを決定してほしい。特に、なぜ「ねぶた祭」をあつかうのか、「ねぶた祭」の分析で何をみていくのかを話す予定である。その点をしっかり理解することが望ましい。</p> <p>また成績評価の基準をこれまで以上に分かりやすくするため、成績評価の方法についてもより詳しく説明する。</p>		
<b>〔教科書〕</b> 特になし		
<b>〔指定図書〕</b> 特になし		
<b>〔参考書〕</b> 下記の本を参照することが望ましい。 宮田登／小松和彦 『増補版 青森ねぶた誌』青森市、2016年 河合清子 2010『ねぶた祭 ——“ねぶたバカ”たちの祭典』角川書店		
<b>〔前提科目〕</b> 特にないが、「社会と人間」を受講しているのが望ましい。		

<p><b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提起的にコメント用紙を書いてもらい、評価を行う。コメント用紙は主に 0～5 点で評価で行う。また中間時に小テストを行う。なお毎回出席はとる予定でいる。成績評価はこれらの得点と期末試験時の得点を合算したもので算出する。</li> <li>・コメント用紙は一方的な講義にならないようにしているためのものでもある。授業への感想意見なども積極的に書いてほしい。修正できることはその次の週から取り入れて、修正していく。</li> <li>・また 30 分以上の遅刻は欠席とする。なお欠席が多いものは、単位取得が不可能であることを前提としている。</li> <li>・試験期間に試験を行う予定でいる。出題内容は授業内容に関するもの。主に論述式で、知識および解釈力、主張を問うものとする。</li> <li>・授業に関して興味がないもの、また私語が多いものは受講する必要はないと考えている。</li> </ul>	
<p><b>〔評価の基準及びスケール〕</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験 60%、コメント用紙 30%、中間テスト 10%として採点する。</li> </ul> <p>A～F の評価は本学の規定に準ずる。</p>	
<p><b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b></p> <p>第一回目の授業時に成績評価の方法、講義の進め方、内容、注意事項、変更点について説明する。そのため、受講予定者はもちろんのこと、受講を考えている学生も必ず出席すること。</p> <p>前期講義に関しては、特に青森県、青森市のまつりをテーマとし、具体的な日常生活と関連したものを扱う。こういった日常の話題を自分の出身地の文化・風習や、日常生活に結びつけて考えること、すなわち比較できる能力を求めている。また事例を別の事例に応用して、文化発信、ビジネスチャンスなどに結びつけられるか常に考える力が必要といえる。本講義では受動的に、教科書的なことを学ぶのではなく、自らの想像力と発想力をより豊かにするという考えで授業の取り組んでほしい。</p> <p>なお担当者の専門領域は「社会学」であり、社会学的な視点を理解する力も求められる。そのうえで、経営、経済学との違いを理解し、応用できるよう自らの力で考える姿勢を求める。</p>	
<p><b>〔実務経歴〕</b></p> <p>なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域と向き合う</p> <p>内 容: ガイダンス 地域社会を考えることの意味。具体的には「ねぶた祭」を通じて何を学ぶか、講義全体のビジョンと主旨を説明する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 青森文化を考える視点: グローカル文化を考える</p> <p>内 容: 地域文化論の基本的な考えを理論的な視座から学ぶ。その際に、人口減少対策としての「交流人口」「循環人口」「共生人口」の概念について学ぶ。同時にグローバルな視点を考える。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 祭りとは何か: 基本知識①</p> <p>内 容: 基本的な歴史を学ぶ。歴史学、民俗学的な視点からの重要性もあわせて紹介する。この回は特に講義に必要な基礎知識を紹介する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 祭りとは何か: 基本知識②</p> <p>内 容: 現代的なねぶた祭の構造について学ぶ。そこに関わる人々と社会構造を考える。基本的には地域社会学的な視点から、日常生活におけるイベント等についての意味づけを考えていく。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 日常文化と祭礼①</p> <p>内 容: 都市型の祭礼としてのねぶた祭を考える。特に理論的な視座を学ぶ。比較社会学的な視点を重視し、他の祭礼との比較も考える。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 日常文化と祭礼②</p> <p>内 容: 青森ねぶた祭の日常性を考える。地域社会における運営、および企業経営におけるねぶた祭の位置づけを人々の語りから考える。</p> <p>教科書・指定図書</p>



第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 日常文化と祭礼③</p> <p>内 容: 前回に引き続き地域社会における運営、および企業経営におけるねぶた祭の位置づけを人々の語りから考える。特に青森に根差した企業の活動を紹介し、地方における企業経営と職場についても考える。教科書・指定図書</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): 前半のまとめ、小テスト。</p> <p>内 容: 前半に学んだ祭礼、地域社会学的な理論的視座、企業経営と祭りに関する視点を振り返りまとめていく。同時に前半の理解度を小テストなどによって確認する。 教科書・指定図書</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域社会の活動①: 地域ねぶたを考える</p> <p>内 容: ねぶた祭を通じた地域社会の活動例を、具体的に紹介していく。これらの日常的な実践が、大きな企画に結びつき、地域の文化を創り上げていることを学ぶ。 教科書・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域社会の活動②: ホテル経営と飲食店</p> <p>内 容: ねぶた祭を通じた地域社会の活動例を、具体的に紹介していくことの2回目として、客をもてなす、受け入れることについて考える。特に青森市新町のホテルや飲食店などの活動について紹介する。 教科書・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域社会の活動③: ねぶた祭を支える人々</p> <p>内 容: 地域活動を考える第三回目として、ねぶた祭に主体的に関わる人々の実践例を紹介する。特に、ねぶた祭を支える企業や、組織などについて紹介していく。祭りを通じた地元産業の在り方について学ぶ。 教科書・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域文化の創設①: ねぶた師という仕事</p> <p>内 容: この回から地域文化が、伝統や文化財になっていくことの意義を考える。まさしく地域の特徴、伝統が創り上げられていくことの重要性を考える。特にこの会は「ねぶた師」に注目する。 教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域文化の創設②: 囃子</p> <p>内 容: 前回に引き続き、伝統や文化財について考える。この回は囃子に注目し、それがいかに伝統文化として認識されているかを考える。 教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域文化の創設③: 文化の外部化</p> <p>内 容: 地域文化がパッケージ化され、外部で使用される事例を考える。具体的には首都圏で行われている「ねぶた祭」を紹介しつつ、青森との比較を行う。これによって「祭」の文化としての役割を考える。 教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域社会の未来にむけて。</p> <p>内 容: 講義を総括しつつ、地域社会の課題、未来、可能性について考えていく。特に具体的な事例から普遍的な思考を養うための理論的視座をいかに構築していくかを考える。 教科書・指定図書</p>
試験	

<b>〔科目名〕</b> <b>地域経済学</b>	<b>〔単位数〕</b> 4	<b>〔科目区分〕</b> 専門科目
<b>〔担当者〕</b> 樺 克裕 KAMBA, Katsuhiko	<b>〔オフィス・アワー〕</b> 授業開始後にお知らせします。	<b>〔授業の方法〕</b> 講義
<b>〔科目の概要〕</b> 21世紀に入り、経済はグローバル化しました。企業は国境を超えて活動し、様々な国で作られた商品が日本国内で流通する時代になりました。そのような中で、日本企業はアメリカやヨーロッパ諸国のような先進国の企業だけでなく、中国や韓国、インド等の新興国の企業とも激しい競争を繰り広げており、日本企業を取り巻く環境は一段と厳しくなっています。 一方で、日本国内では、人口減少社会を迎え、その中でも人口と企業が集中する東京等の都市部と、人口の流出に歯止めがかからず地域経済が衰退しつつある青森県のような地方部の経済的な格差が深刻な社会問題となっています。様々な規制緩和により、大企業が提供する低価格な商品、サービスを全国どこでも享受できるようになった一方で、地方の老舗企業の倒産も目立っています。 また、日本の各地域の経済を詳細にみると、モータリゼーションや立地規制の緩和等により伝統的な商店街の多くは疲弊し、空き店舗が目立っています。グローバル経済の影響を受け、中小製造業も円高の進展や下請け関係の解消等厳しい状況にあり、地方に誘致した大企業の工場も数年で移転、閉鎖することも珍しくない状況にあります。 このように、地域経済は、日本国内の経済だけでなく、世界経済と密接に繋がっています。この科目では、世界経済、日本経済の最新の現状分析と人口移動、地価、都市規模、立地等に関する理論分析を組み合わせ、地域経済に対する理解を深めることを目的とします。		
<b>〔授業科目群〕・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつかか〕</b> みなさんが既に学んできたミクロ経済学、マクロ経済学等では、物事を単純化して考えてきたと思います。しかし、実際に各地域の経済を考える時には、地域の特性(気候、人口、地理的条件、インフラの整備状況…)を無視して考えることはできません。地域経済をより深く理解するため、地域経済学の授業では、地域の実情を考慮しながら、地域経済を分析する視点を提示していきます。 学生の皆さんは、いずれ社会人として地域経済の担い手となります。その際、この授業内容が少しでも役立つようになればと願っています。		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> 中間目標:世界経済、日本経済、地域経済の現状について理解すること  最終目標:経済学的視点を持って地域経済の様々な問題を分析できるようになること。		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> 綺麗な板書を心掛けます。履修者の制限による授業改善を図る予定です。		
<b>〔教科書〕</b> なし。授業は配布するレジュメに沿って進行します。		
<b>〔指定図書〕</b> 佐藤泰裕『都市・地域経済学への招待状』有斐閣ステュディア 有斐閣 2014年		
<b>〔参考書〕</b> 山崎福寿・中川雅之『経済学で考える 人口減少時代の住宅土地問題』東洋経済新報社 2020年 金本良嗣・藤原 徹『都市経済学(第2版) <プログレッシブ経済学シリーズ>』東洋経済新報社 2016年 高橋孝明『都市経済学』有斐閣ブックス 有斐閣 2012年		
<b>〔前提科目〕</b> なし		
<b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b> 中間試験と期末試験で評価します。詳細は第1回目の授業で発表します。		

<p><b>〔評価の基準及びスケール〕</b></p> <p>評価 得点比率</p> <p>A 80% ～ 100%</p> <p>B 70% ～ 80%未満</p> <p>C 60% ～ 70%未満</p> <p>D 50% ～ 60%未満</p> <p>F 50%未満</p>	
<p><b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b></p> <p>地域の経済活動に関心をもつために、新聞やニュースをチェックすることを推奨します。</p>	
<p><b>〔実務経歴〕</b></p> <p>旧通産省での実務経験を活かし、世界経済・日本経済の最新の現状分析とより理解を深めるための理論分析を組み合わせて、地域経済に対する理解を深める授業です。</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか):地域経済学とは?</p> <p>内 容:世界経済と日本経済と地域経済の関連性</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか):地域経済の現状</p> <p>内 容:本格的に地域経済学を学ぶ前に、地域経済の現状を俯瞰する。</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか):経済のグローバル化と地域経済(1)</p> <p>内 容:経済のグローバル化が日本経済に与える影響</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか):経済のグローバル化と地域経済(2)</p> <p>内 容:グローバル化が地域経済に与える影響</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):経済政策と地域経済(1)</p> <p>内 容:経済政策の種類と地域経済への影響</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):経済政策と地域経済(2)</p> <p>内 容:過去の経済政策(経済対策)と地域経済</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):経済政策と地域経済への波及効果(1)</p> <p>内 容:セイの法則と有効需要の原理</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):経済政策と地域経済への波及効果(2)</p> <p>内 容:需要モデルと供給モデル</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):産業連関分析(1)</p> <p>内 容:産業連関表の導出</p>

第10回	テーマ(何を学ぶか):産業連関分析(2) 内 容:産業連関表と経済波及効果
第11回	テーマ(何を学ぶか):日本の企業経営と地域経済(1) 内 容:日本の企業経営の現状
第12回	テーマ(何を学ぶか):日本の企業経営と地域経済(2) 内 容:地域の中小企業の現状
第13回	テーマ(何を学ぶか):日本の労働市場と地域経済(1) 内 容:労働市場の概説
第14回	テーマ(何を学ぶか):日本の労働市場と地域経済(2) 内 容:労働市場の地域間格差
第15回	テーマ(何を学ぶか):日本の財政と地域経済 内 容:財政制度の概要
第16回	テーマ(何を学ぶか):日本の地方財政と地域経済 内 容:地方財政制度の概要
第17回	テーマ(何を学ぶか):人口移動(1) 内 容:地域間人口移動の現状
第18回	テーマ(何を学ぶか):人口移動(2) 内 容:地域間人口移動の理論
第19回	テーマ(何を学ぶか):集積の経済 内 容:集積の経済モデル
第20回	テーマ(何を学ぶか):土地利用分析(1) 内 容:農地の土地利用分析
第21回	テーマ(何を学ぶか):土地利用分析(2) 内 容:都市の土地利用分析
第22回	テーマ(何を学ぶか):住宅市場(1) 内 容:日本の住宅市場
第23回	テーマ(何を学ぶか):住宅市場(2) 内 容:住宅価格・家賃・地価・地代のモデル分析

第24回	テーマ(何を学ぶか):都市システムモデルと最適都市規模(1) 内 容:システムとしての都市
第25回	テーマ(何を学ぶか):都市システムモデルと最適都市規模(2) 内 容:都市規模決定の理論モデル
第26回	テーマ(何を学ぶか):企業立地(1) 内 容:工業立地の分析
第27回	テーマ(何を学ぶか):企業立地(2) 内 容:商業立地の分析
第28回	テーマ(何を学ぶか):地方財政の理論 内 容:公共財の供給、課税ゲーム
第29回	テーマ(何を学ぶか):交通サービス(1) 内 容:経路選択
第30回	テーマ(何を学ぶか):交通サービス(2) 内 容:交通サービスと混雑の影響
試験	定期試験を実施する。

<b>〔科目名〕</b> <b>産業組織論</b>	<b>〔単位数〕</b> 4 単位	<b>〔科目区分〕</b> 専門科目
<b>〔担当者〕</b> 小寺 俊樹	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> 初回の授業にて提示 <b>場所:</b> 初回の授業にて提示	<b>〔授業の方法〕</b> 講義
<b>〔科目の概要〕</b> <p>産業組織論は、産業の組織構造や企業の経営戦略、政府の競争政策を分析する学問である。この授業では、現実の企業が行う製品差別化や価格設定、合併といった様々な行動について、経済理論を用いて分析するための基礎的な方法を提供する。本講義で習得した分析手法により、学生が自ら現実の企業行動や競争政策における問題を発見し、解決策を導き出す力を育成することをこの授業の目的とする。</p>		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</b> <p>産業組織論は、産業構造や企業や消費者といった市場参加者の行動を分析するとともに、競争政策を立案するための基礎的な情報を提供する経済理論の応用分野である。したがって、この授業ではこれまで学んできた経済理論を、現実の問題解決に応用するために、どうすればよいかということ学習する。最終的に、現実の企業行動や競争政策における問題を解決する力を身に着けることにつながる。</p> <p>この授業は、マイクロ経済学、応用マイクロ経済学、ゲーム理論等の科目と関連がある。</p>		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> <p>(中間目標)          不完全競争(独占、寡占)の理論についての知識を習得する。          製品差別化や価格差別といった、企業の競争戦略にかんする知識を習得する。</p> <p>(最終目標)          合併や垂直的取引関係等の、産業組織論にかんする基礎的な知識を習得する。</p>		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> <p>配布資料を見やすくなるよう工夫できればと思います。わからないことがあれば、オフィスアワー等を利用するとよい。</p>		

<p>〔教科書〕 花蘭誠『産業組織とビジネスの経済学』有斐閣、2018</p>	
<p>〔指定図書〕 小田切宏之『産業組織論』有斐閣、2019 泉田成美、柳川隆『プラクティカル産業組織論』有斐閣、2008</p>	
<p>〔参考書〕 Luis M. B. Cabral, Introduction to industrial organization, The MIT Press, 2000</p>	
<p>〔前提科目〕 ミクロ経済学、ゲーム理論を履修していることが望ましい。</p>	
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <p>授業の復習として練習問題を課す。また理解度をはかるため、数回の小テストを実施する。期末試験も実施する。評価は、期末試験と小テストの結果、授業中の活動や貢献等をあわせて評価する。</p>	
<p>〔評価の基準及びスケール〕</p> <p>A 80%以上、B 70%以上 80%未満、C 60%以上 70%未満、D 50%以上 60%未満、F 50%未満</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <p>産業組織論は、経済理論を用いて現実の企業の行動を説明しようとするものである。したがって、日頃からニュースや新聞等で報道される様々な企業の行動について、興味を持って触れてほしい。講義の進度によって、内容を変更することがある。</p>	
<p>〔実務経歴〕</p> <p>製造業での実務経験を活かし、現実の企業が行う製品差別化や価格設定、合併といった様々な行動について、経済理論を用いて分析するための基礎的な情報を提供し、解決策を導き出す力を育成することを目的とした授業です。</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): 産業組織論とは 内 容: ガイダンス</p> <p>教科書・指定図書</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 市場の画定 内 容: 市場の画定</p> <p>教科書・指定図書</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 企業 内 容: 企業の目的と行動</p> <p>教科書・指定図書</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 完全競争市場 内 容: 完全競争市場における均衡</p> <p>教科書・指定図書</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 独占 内 容: 独占価格と社会厚生</p> <p>教科書・指定図書</p>

第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 独占 内 容: 規模の経済</p> <p>教科書・指定図書</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 独占 内 容: 自然独占</p> <p>教科書・指定図書</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): まとめ 内 容: これまでの講義内容の復習</p> <p>教科書・指定図書</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): 価格差別 内 容: 価格差別の種類と完全価格差別</p> <p>教科書・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 価格差別 内 容: 第三種価格差別</p> <p>教科書・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): 価格差別 内 容: 二部料金</p> <p>教科書・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): 価格差別 内 容: 抱き合わせ</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): まとめ 内 容: これまでの講義内容の復習</p> <p>教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): ゲーム理論の基礎 内 容: ナッシュ均衡</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): ゲーム理論の基礎 内 容: ナッシュ均衡</p> <p>教科書・指定図書</p>
第16回	<p>テーマ(何を学ぶか): 寡占市場 内 容: ベルトラン競争</p> <p>教科書・指定図書</p>
第17回	<p>テーマ(何を学ぶか): 寡占市場 内 容: クールノー競争</p> <p>教科書・指定図書</p>
第18回	<p>テーマ(何を学ぶか): 寡占市場 内 容: クールノー競争</p> <p>教科書・指定図書</p>



第19回	<p>テーマ(何を学ぶか): 寡占市場 内 容: シュタツケルバルク競争</p> <p>教科書・指定図書</p>
第20回	<p>テーマ(何を学ぶか): まとめ 内 容: これまでの講義内容の復習</p> <p>教科書・指定図書</p>
第21回	<p>テーマ(何を学ぶか): 製品差別化 内 容: 水平的製品差別化</p> <p>教科書・指定図書</p>
第22回	<p>テーマ(何を学ぶか): 製品差別化 内 容: 垂直的製品差別化</p> <p>教科書・指定図書</p>
第23回	<p>テーマ(何を学ぶか): カルテル 内 容: カルテルの種類</p> <p>教科書・指定図書</p>
第24回	<p>テーマ(何を学ぶか): 合併と買収 内 容: 合併と買収</p> <p>教科書・指定図書</p>
第25回	<p>テーマ(何を学ぶか): 垂直的な企業間関係 内 容: 再販価格維持</p> <p>教科書・指定図書</p>
第26回	<p>テーマ(何を学ぶか): 垂直的な企業間関係 内 容: 排他的取引</p> <p>教科書・指定図書</p>
第27回	<p>テーマ(何を学ぶか): まとめ 内 容: これまでの講義内容の復習</p> <p>教科書・指定図書</p>
第28回	<p>テーマ(何を学ぶか): ネットワーク 内 容: ネットワーク外部性</p> <p>教科書・指定図書</p>
第29回	<p>テーマ(何を学ぶか): ネットワーク 内 容: 標準化</p> <p>教科書・指定図書</p>
第30回	<p>テーマ(何を学ぶか): まとめ 内 容: これまでの講義内容の復習</p> <p>教科書・指定図書</p>
試験	<p>第1回からの内容について、筆記試験を実施する</p>

<b>〔科目名〕</b> 実証経済分析	<b>〔単位数〕</b> 2 単位	<b>〔科目区分〕</b>
<b>〔担当者〕</b> 富岡 淳	<b>〔オフィス・アワー〕</b> 時間: 随時 場所: メール	<b>〔授業の方法〕</b> 講義および実習
<b>〔科目の概要〕</b> <p>授業科目「経済統計」、「統計学」、「計量経済学」で学んだ内容およびその発展的トピックに関する講義とコンピュータ実習を行う。主眼は現実社会のさまざまなデータを対象とした実証分析の実習を行うことにある。</p> <p>教科書と配布資料を利用する。授業で取り扱う主な内容は回帰分析である。</p> <p>データ分析には表計算ソフト Excel および無料の統計解析ソフト gretl を用いる。</p>		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</b> <p>2年次科目「統計学」「計量経済学」は、理論の学習に重点が置かれていた。統計学や計量経済学の理論は元来、実証分析を目的として構築されてきたものである。その意味でも現実のデータを用いた実証分析の学習は不可欠である。また、理論の理解は自らの手でデータに適用することで格段に堅固になる。</p> <p>計量経済学は、ミクロ経済学やマクロ経済学はもとより、労働、産業組織、金融、公共経済学などの応用分野においても活発に利用されている。その目的の一つは経済理論の検証であり、もう一つは政策の評価である。とくに、各分野において具体的かつ現実に即した政策提言を行うためには、数量的な分析が欠かせない。もちろん、世の中に流通している政策に関する議論をクリティカルに吟味する上でも有用である。</p> <p>統計分析をマスターしていることは、オリジナルな卒業論文を執筆するために大いに役立つ。また、現代社会において、データ分析のリテラシーは仕事をしていく上で将来にわたって大きな強みになる。</p>		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> <p>表計算ソフト Excel および統計解析ソフト gretl を使って、正しく効率的に様々なデータ分析を行えるようになること。</p> <p>データ分析を通して、統計学、計量経済学の理解を堅固で実践的なものとする。</p>		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> <p>時間管理と発声を改善する。履修者の理解度を確認しながら授業を進めるよう留意する。</p>		
<b>〔教科書〕</b> <p>田中隆『計量経済学の第一歩』日本評論社、2015 および教員配布資料</p>		
<b>〔指定図書〕</b> <p>加藤久和『gretl で計量経済学』日本評論社、2012 年          加藤久和『やさしい計量経済学: プログラミングなしで身につける実証分析』オーム社、2019 年          唐渡広志『44 の例題で学ぶ計量経済学』オーム社、2013 年          白砂堤津耶『例題で学ぶ初歩からの計量経済学(第2版)』日本評論社、2007 年          滝川好夫・前田洋樹『経済学のための Excel 入門』日本評論社、2006          豊田利久・大谷一博・小川一夫・長谷川光・谷崎久志『基本統計学』第3版、東洋経済新報社、2010</p>		
<b>〔参考書〕</b> <p>Jeffrey M. Wooldridge, <i>Introductory Econometrics: A Modern Approach</i>, South-Western Pub, 7th ed, 2019</p>		
<b>〔前提科目〕</b> <p>2年次科目「統計学」と「計量経済学」の内容の理解があると大変有利である。</p>		

<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <p>提出物、期末試験で評価する。なお、出席・授業参加(発言や質問)は加点要素となりうる。</p>	
<p>〔評価の基準及びスケール〕</p> <p>提出物(4割)、期末試験(6割)の合計を100点満点基準に換算する。点数とグレードの対応は以下の通り。</p> <p>80点以上 A  80点未満 70点以上 B  70点未満 60点以上 C  60点未満 50点以上 D  50点未満 F</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <p>実習の目的の一つは、実習を通して統計学・計量経済学の理論を具体的にイメージ豊かに理解し、自分のものとする  ことである。この点を常に意識しながら、何よりデータ分析の楽しさを実感することを望む。  コンピュータ実習を中心とした授業になるので、必ず出席し、勤勉に実習や課題に取り組むこと。  実習では、教員が提示するデータのほか、教科書の数値例も用いるので、必ず教科書を持参すること。  この授業の内容は積み上げ式の性格が強く、曖昧な点の理解を後回しにすると手遅れとなる可能性が高い。内容の  理解に曖昧な点があれば、時間をおかずに遠慮なく質問してほしい。</p>	
<p>〔実務経歴〕</p> <p>該当なし</p>	
<p>授業スケジュール(履修者の理解度・授業の進度によって変更の可能性はある)</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): インTRODクシヨN/母集団と標本、統計的推論/相関と因果/和記号の性質</p> <p>教科書第1、2章</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 確率論の復習 1</p> <p>教科書第3章</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 確率論の復習 2</p> <p>教科書第3章</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 統計的推論の復習 1</p> <p>教科書第4章</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 統計的推論の復習 2</p> <p>教科書第4章</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 単回帰分析 1</p> <p>教科書第5章</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 単回帰分析 2</p> <p>教科書第5章</p>

第8回	テーマ(何を学ぶか): 重回帰分析 1 教科書第 6 章
第9回	テーマ(何を学ぶか): 重回帰分析 2 教科書第 6 章
第 10 回	テーマ(何を学ぶか): 重回帰分析 3 教科書第 7 章
第 11 回	テーマ(何を学ぶか): 操作変数法 1 教科書第 8 章
第 12 回	テーマ(何を学ぶか): 操作変数法 2 教科書第 8 章
第 13 回	テーマ(何を学ぶか): パネル・データ分析 1 教科書第 9 章
第 14 回	テーマ(何を学ぶか): パネル・データ分析 2 教科書第 9 章
第 15 回	テーマ(何を学ぶか): マッチング法/回帰不連続デザイン 教科書第10、11章
試験	

<b>〔科目名〕</b> 環境経済学	<b>〔単位数〕</b> 2単位	<b>〔科目区分〕</b> 専門科目 展開科目
<b>〔担当者〕</b> 青山 直人 Aoyama, Naoto	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> 詳細は授業中にアナウンスします。 <b>場所:</b> 青山研究室	<b>〔授業の方法〕</b> 講義
<b>〔科目の概要〕</b> 私たちが直面している環境問題は、大気や水、土壌などの汚染問題から廃棄物問題、気候変動問題、生物多様性の減少、景観の保全などの文化的ストックの問題まで多様な領域にわたり、空間的スケールにおいては騒音や悪臭などの地域的規模の問題から、酸性雨問題などの国際的規模、地球温暖化やオゾン層の破壊など地球的規模の問題まで広域化し、深刻化しています。この多様で重層な環境問題を解決するためには、(1)なぜ環境問題が発生するのか、(2)環境問題を解決するために必要なことは何か、(3)環境保全をどのようにするのか、ということを考えなければなりません。本科目では、環境問題発生メカニズム、環境政策の基礎理論、環境の価値評価といったテーマを取り上げ、環境経済学の基本的な考え方を学びます。環境問題を解決し、環境保全型社会を実現するために出来ることは何か、考えてほしいと思います。		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか〕</b> (「授業科目群」・他の科目との関連付け) 環境経済学を勉強するためには、市場機構を学習するミクロ経済学、外部性や公共財を学習する公共経済学の知識とその考え方が必要となります。 (なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが何に結びつか) 私たちが身近に直面している環境問題やテレビ、新聞などのニュースで取り上げられる環境問題について、問題発生の原因や実施される政策を経済学的に考える力を養ってほしいと思います。開発に関わる公共事業や環境保全政策にとって大切なことの一つは、地域住民の意見や選好が反映されているかどうかということです。環境の価値を考え、地域に住む人々の意見が公共投資に反映されているかどうかを考える力を養ってほしいと思います。環境問題を解決し、環境保全型社会を実現するために出来ることは何か、考えてほしいと思います。		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> (中間目標) 「環境問題発生メカニズム」を学習し、環境問題の原因を考える力を養ってほしいと思います。 (最終目標) 「環境問題発生メカニズム」「環境政策の基礎理論」「環境の価値評価」を学習し、環境問題を解決するために必要なことは何か、環境保全型社会を実現するために出来ることは何か、考えてほしいと思います。また、経済学理論の環境問題への応用方法を学習することで、環境問題以外の社会問題を経済学的に考える力を身につけてほしいと思います。		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> 「黒板の字が小さい」、「説明のとき語尾が小さくてたまに聞き取れないことがあった」等のコメントがありました。板書の字を大きくするようにします。また、説明の際の音量に注意します。		
<b>〔教科書〕</b> 栗山浩一、馬奈木俊介著『環境経済学をつかむ 第4版』有斐閣、2020年。 日引聡、有村俊秀著『入門 環境経済学 環境問題解決へのアプローチ』中央公論新社、2002年。		
<b>〔指定図書〕</b> 植田和弘著『現代経済学入門 環境経済学』岩波書店、1996年。 栗山浩一、柘植隆宏、庄子康著『初心者のための環境評価入門』勁草書房、2013年。 細田衛士、横山彰著『環境経済学』有斐閣アルマ、2007年。 諸富徹、浅野耕太、森晶寿著『環境経済学講義 持続可能な発展を目指して』有斐閣、2008年。		

<p><b>〔参考書〕</b>  R.K.ターナー/D.ピアス/I.ベイトマン著 大沼あゆみ(訳)『環境経済学入門』東洋経済新報社、2001年。  板谷淳一、佐野博之著『コア・テキスト 公共経済学』新世社、2013年。</p>	
<p><b>〔前提科目〕</b>  「経済学基礎論」「ミクロ経済学」「公共経済学」を履修済みであることが望ましい。</p>	
<p><b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b>   期末試験と小テスト(もしくは課題)の成績を用いて総合的に評価する予定です。</p>	
<p><b>〔評価の基準及びスケール〕</b>   A 80%以上、B 70%以上80%未満、C 60%以上70%未満、D 50%以上60%未満、F 50%未満</p>	
<p><b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b>  これまでミクロ経済学、公共経済学を履修した人は関連する単元を復習するようにしてください。まだ学習した経験がない人は、テキストを一度読むことをすすめます。授業やテキストの内容でわからない箇所は質問してください。授業スケジュールは次のとおりになっています。ただし、小テストの結果(授業の理解度等)によっては変更することもあります。</p>	
<p><b>〔実務経歴〕</b>  該当なし。</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): インTRODクシヨン  内 容: 私たちが直面している環境問題を取り上げ、環境経済学の役割について取り上げます。   配布資料 (栗山・馬奈木(第1章、第6章 Unit22)など)</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): インTRODクシヨン  内 容: 第1回講義の続き。   配布資料 (栗山・馬奈木(第1章)など)</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 環境問題発生メカニズム(1) 外部性と市場の失敗  内 容: なぜ環境問題が発生するのであろうか。市場機構の仕組みを学習し、外部性の問題を取り上げます。  配布資料 (栗山・馬奈木(第2章 Unit4)、日引・有村(第1章)など)</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 環境問題発生メカニズム(1) 外部性と市場の失敗  内 容: 第3回講義の続き。   配布資料 (栗山・馬奈木(第2章 Unit4)、日引・有村(第1章)など)</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 環境問題発生メカニズム(2) 共有資源の利用と管理  内 容: 多くの人々が利用可能な資源をコモンズと呼びます。森林の劣化などのコモンズの悲劇について学習します。  配布資料 (栗山・馬奈木(第2章 Unit5)、植田(第9章)など)</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 環境問題発生メカニズム(2) 共有資源の利用と管理  内 容: 第5回講義の続き。   配布資料 (栗山・馬奈木(第2章 Unit5)、植田(第9章)など)</p>

第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):環境問題発生のメカニズム(3) 公共財とフリーライダー  内 容: 環境は公共財として考えられます。公共財供給におけるフリーライド問題を取り上げます。</p> <p>配布資料 (栗山・馬奈木(第2章 Unit6)など)</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):環境政策の基礎理論(1) 直接規制と市場メカニズム  内 容: 伝統的な環境政策である直接規制を学習します。</p> <p>配布資料 (栗山・馬奈木(第3章 Unit7)、日引・有村(第2章)など)</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):環境政策の基礎理論(2) 環境税  内 容: 環境問題への経済学的アプローチとして、環境税を学びます。</p> <p>配布資料 (栗山・馬奈木(第3章 Unit8)、日引・有村(第2章)、細田・横山(第7章)、諸富他(第3章))</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):環境政策の基礎理論(2) 環境税  内 容: 第9回講義の続き。環境税について学びます。</p> <p>配布資料 (栗山・馬奈木(第3章 Unit8)、日引・有村(第2章)、細田・横山(第7章)、諸富他(第3章))</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):環境政策の基礎理論(3) 直接交渉による解決  内 容: 直接交渉による環境問題の解決について学びます。</p> <p>配布資料 (栗山・馬奈木(第3章 Unit8、9)、日引・有村(第2、3章)、諸富他(第3章)など)</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):環境政策の基礎理論(4) 排出権取引  内 容: 排出権取引について学びます。</p> <p>配布資料 (栗山・馬奈木(第3章 Unit10)、日引・有村(第3章)、諸富他(第3章)など)</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):環境の価値評価(1) 環境の価値  内 容: 環境の価値とは何か。環境の利用価値と非利用価値を考え、支払意思額と受入補償額について学習します。</p> <p>配布資料 (栗山・馬奈木(第5章 Unit15)、栗山他(第1、2章)など)</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):環境の価値評価(1) 環境の価値  内 容: 第13回講義の続き。</p> <p>配布資料 (栗山・馬奈木(第5章 Unit15)、栗山他(第1、2章)など)</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):環境の価値評価(2) 環境評価手法  内 容: 代表的な環境評価手法の基本的な考え方を紹介します。</p> <p>配布資料 (栗山・馬奈木(第5章 Unit16、Unit17)、栗山他(第3～10章)など)</p>
試験	<p>期末試験を行います。</p>

<b>【科目名】</b> ファイナンス理論	<b>【単位数】</b> 2 単位	<b>【科目区分】</b> 専門科目 展開科目
<b>【担当者】</b> 國方 明	<b>【オフィス・アワー】</b> 時間:第 1 回授業で伝えます。 場所:525 号室	<b>【授業の方法】</b> 講義
<b>【科目の概要】</b> 本科目では、金融経済学のうち証券や証券市場にかかわる部分をより深く学びます。 金融経済学では、ミクロ経済学とマクロ経済学の知識を使って、金融に関する最低限の理論を学びました。しかし、金融経済学は基幹科目なので、高度な知識な理論を取り上げにくい。また、金融経済学では、たった 30 回相当の授業で、ミクロ経済学の応用としての金融と、マクロ経済学の応用としての金融の両方を学ばした。このため、学びきれない知識や理論があります。例えば、金融経済学第 14 回ハンドアウトで、証券市場を取り上げました。しかし、証券市場で大きな役割を果たす証券会社については、時間の関係で省略しました。 本科目は展開科目なので、金融に対して興味・関心の強い学生に対して、金融経済学よりも高度な知識と理論を教えます。但し、本科目は全 15 回しか授業がないので、次の 3 つの議論だけを取り上げます。 ① 第 1 回、第 2 回:金融資産が取引される証券市場に関する議論 [金融経済学第 4 回と同第 14 回の発展] ② 第 3 回～第 7 回:金融資産の価格付けに関する議論 [金融経済学第 7 回～同第 11 回の発展] ③ 第 8 回～第 15 回:派生商品などの議論  また、本科目の名前は「ファイナンス理論」なので、理論の紹介が中心になります。但し、理論を理解するために必要な範囲内で、現実の制度を紹介します。		
<b>【「授業科目群」・他の科目との関連付け】・「なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか」</b> <他の科目との関連付け> 上記波線部の授業回数から分かる通り、本科目は「ミクロ経済学の応用としての金融経済学」の一部の回を発展させたものです。このため、ミクロ経済学、応用ミクロ経済学と統計学の知識に基づきます。 また、本科目で得た知識を、金融機関論(3 年次秋学期、展開科目)で応用する予定です。  <学んだことが何に結びつくか？> 本科目では、金融経済学よりも高度な理論と、(最低限の)制度的な知識を教えます。この結果、現実の金融市場に対する理解が深まると期待します。		
<b>【科目の到達目標(最終目標・中間目標)】</b> <最終目標> ・現実の金融市場を理解できるように、金融経済学よりも高度な理論と、(最低限の)制度的な知識を身につける。  <中間目標> ・金融市場にかかわる専門的知識を身につける。 ・金融市場にかかわる制度を理解する。		
<b>【学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫】</b> 「ハンドアウトが見にくい」という指摘がありました。この指摘を改善するよう、次の 2 つを改善します。(1)ハンドアウトのフォントを変更します。(2)可能な限り、図表を増やし、図表の配置を変更します。		
<b>【教科書】</b> 本科目では教科書を使わず、ハンドアウト(俗にいうプリント)を用います。ハンドアウトは下記参考書に基づいて作成されています。		
<b>【指定図書】</b> 該当無し。		
<b>【参考書】</b> 参考書 1: 大村敬一、『ファイナンス論』、有斐閣、2010 年(新品を購入可能、本学図書館に所蔵済み) 参考書 2: 大村敬一・俊野雅司、『証券論』、有斐閣、2014 年(新品を購入可能、本学図書館に所蔵済み) 参考書 3: 岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、有斐閣、2019 年(新品を購入可能、本学図書館に所蔵済み)		



<p><b>〔前提科目〕</b>          ミクロ経済学、応用ミクロ経済学、統計学、金融経済学</p> <p>私は上記科目の単位を取得していない人の履修を制限しません。但しこの人は、各科目のシラバスで指定された教科書などを自習してください。          金融経済学と本科目の関連について、<b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と、皆さんへの要望〕</b>で述べています。そちらをご覧ください。</p>	
<p><b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b>          小テスト(択一式)1回、及び、期末試験(択一式と記述式の併用)の総合評価に基づき、各履修者を評価します。小テストや期末試験以外の機会は一切ありません。また、全ての履修者を同じ基準で評価します。          第1回の授業で詳細を連絡します。</p>	
<p><b>〔評価の基準及びスケール〕</b>          小テストと期末試験の総合評価に基づいて、グレードの仕切りを定めます。</p> <p>A: 80%以上          B: 70%以上、80%未満          C: 60%以上、70%未満          D: 50%以上、60%未満          F: 50%未満</p>	
<p><b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 新型コロナウイルス感染拡大状況などによって、本シラバスに変更がありえます。変更が生じたら、授業内や学内掲示などで連絡します。</li> <li>● 第1回の授業で、評価方法などについて補足説明を行います。できる限り出席してください。</li> <li>● 本科目は金融経済学で教えた内容を前提として、それに補足説明を行います。つまり、本科目自体は、金融経済学ほど体系だっていません。このため、金融経済学を履修しなかった人や、金融経済学を履修してD評価またはF評価を得た人は相当苦労するでしょう。これらに該当する人は、本科目を履修するか否かを十分に考えてください。</li> <li>● 他の学生の迷惑になる行為(例: 私語や、授業にかかわる学生同士の相談を、原則として禁じます。授業にかかわる相談も、周囲の学生にとって受講の妨げになりうることを想像してください。授業中に相談事が生じたら、國方が受け付けます。</li> </ul>	
<p><b>〔実務経歴〕</b>          公認会計士事務所での監査証明業務補助などの実務経験を活かし、現実の金融市場を理解できるように、金融経済学よりも高度な理論と制度的な知識を身につける授業です。</p>	
<p style="text-align: center;"><b>授業スケジュール</b></p> <p>(対面授業 15回を予定しています。但し、新型コロナウイルス感染拡大状況によって、変更がありえます。変更が生じたら、授業内で連絡します。)</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): ガイダンス、証券市場と証券会社          内 容: 金融経済学第14回を復習して、証券会社の主要業務を学びます。          参考書1の第10章、参考書2の第14章。</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 株式の売買注文とその処理          内 容: 株式の売買注文の特徴を学びます。また、注文処理にかかわるルールを2つ学びます。          参考書2の第5章、参考書3の第4章。</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 株式の投資指標(単一銘柄)          内 容: 個別企業の株式のパフォーマンスを測る指標を学びます。ここでは、個別銘柄のパフォーマンスに注目しています。ポートフォリオのパフォーマンス指標を第6回で教えます。          参考書 該当無し。</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 証券の投資収益率にかかわる回帰分析          内 容: 第4回～第7回で、証券(債券と株式など)全般にかかわる理論を取り上げます。第4回では、証券の投資収益率を、データを使って分析する場合の回帰式を学びます。          参考書 該当無し。</p>

第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): CAPM</p> <p>内容: 第4回で学んだ回帰式は、いくつかの理論に基づきます。その理論のうち、Capital Asset Pricing Model(CAPM、キャップエムと略します。)を学びます。</p> <p>参考書1の第8章、参考書3の第9章。</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): ポートフォリオのパフォーマンス指標</p> <p>内容: CAPMを応用して、ポートフォリオのパフォーマンスを測る指標を3つ学びます。</p> <p>参考書1の第9章、参考書3の第9章。</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): CAPMの現実への拡張</p> <p>内容: CAPMは精緻であるとともに実用性の高い理論です。しかし、非現実的とも考えられる仮定に基づきます。そこで、CAPMの仮定の一部を外した、より現実的な拡張モデルが開発されています。その拡張モデルを学びます。</p> <p>参考書1の第8章、同第10章、参考書3の第9章。</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): 先渡取引</p> <p>内容: 金融経済学と本科目第7回までで、証券の売買、つまり証券と代金とを交換する取引を教えました。この種類の取引を、原資産取引といいます。本科目第8回以降では、原資産取引から派生する取引を学びます。派生して生み出される商品を、派生商品またはデリバティブズといいます。</p> <p>第8回では、派生商品のうち先渡取引を学びます。</p> <p>参考書1の第11章第3節、参考書2の第10章。</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): オプション取引①・専門用語など</p> <p>内容: 派生商品のうちオプション取引を教えます。オプション取引は、権利の売買です。売買対象の権利は、「買う権利(コール)」と「売る権利(プット)」の2種類に分かれます。したがって、オプション取引に参加する投資家の立場は、「コールを買う」、「コールを売る」、「プットを買う」、「プットを売る」の4種類に分かれます。これら立場などを学びます。</p> <p>なお第9回の授業内で、小テストを実施する予定です。</p> <p>参考書1の第12章、参考書2の第11章、参考書3の第6章。</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): オプション取引②・コールの価格決定理論(1)</p> <p>内容: コールを売買する際の価格の決定理論のうち、一期間二項格子モデルを学びます。</p> <p>参考書1の第12章、参考書3の第6章。</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): オプション取引③・コールの価格決定理論(2)</p> <p>内容: 第10回で学んだ理論を、複数期間に拡張します。その際、リスク中立確率という概念を学びます。</p> <p>参考書1の第12章、参考書3の第6章。</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): オプション取引④・プットの価格決定理論</p> <p>内容: 第10回で学んだ理論を、プットの価格決定に応用します。その際、プット・コール・パリティという関係を利用します。</p> <p>参考書1の第12章、参考書3の第6章。</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): 複数取引を組み合わせた取引戦略①</p> <p>内容: 第13回と第14回で、原資産取引と派生商品を組み合わせた取引を学びます。第13回では、原資産取引とオプション取引を組み合わせた取引を学びます。</p> <p>参考書2の第11章、参考書3の第6章。</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): 複数取引を組み合わせた取引戦略②</p> <p>内容: 第14回では、複数のオプション取引を組み合わせた戦略を学びます。</p> <p>参考書2の第11章、参考書3の第6章。</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): 派生商品の機能と、投資家の取引目的</p> <p>内容: 第8回で書いたように、派生商品は原資産取引から派生する取引に過ぎません。では、派生商品は経済でどのような役割を果たしているのでしょうか？ また、投資家はどのような目的で派生商品取引するのでしょうか？</p> <p>参考書1の第11章、参考書3の第5章。</p>
試験	<p>期末試験(択一式と記述式の併用)を実施します。出題範囲などについては授業内で連絡します。</p>

<b>〔科目名〕</b> 社会保障論	<b>〔単位数〕</b> 2単位	<b>〔科目区分〕</b> 展開
<b>〔担当者〕</b> 大矢 奈美	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> 授業の開始時に提示します。 <b>場所:</b> 研究室(523)	<b>〔授業の方法〕</b> 講義
<b>〔科目の概要〕</b> <p>我が国では、少子・高齢化の進展により、医療、介護、年金などといった社会保障制度の重要性が高まっている。また、新型コロナウイルス感染拡大によって鮮明になったように、日本においても深刻な貧困問題が存在しており、その対応の多くを担うのが社会保障制度である。一方で、今後の社会保障関連支出増大をにらみ、税や保険料負担の引き上げ、社会保障給付の削減などが検討・実施されている。これらの政策をどのように評価することができるのか。</p> <p>この講義では、まず社会保障とは何か、その理念とは何かということについて考える。社会保障制度は、「互いに助けあい支えあう」ことを基本として成立しているものと考えられるが、実際の運用には資金が必要となる。これを誰がどのように負担するのかということは重要な問題だろう。よって、本講義では、日本の社会保障制度の概要を主に経済の側面から分析する。</p> <p>社会保障は範囲も広く、多岐にわたっているため、残念ながら全ての分野について取り上げることは難しい。そこで個別の制度としては、公的年金と医療制度、および生活保護を取り扱い、それ以外の制度はレポート課題の設定などによって受講生が独自に学ぶような仕組みにしたい。また、社会保障制度は社会の変化に対応する必要もあるため、政府内でも継続して改正案が検討され、細かな変更が重ねられている。よって、制度に関しては2021年3月時点の現行制度を対象とし、適宜、改革案などについて紹介することとする。</p>		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</b> <p>現代日本人の生活は、社会保障制度によって支えられている。たとえば公的医療保険。日本では一部の例外を除き、全国民が加入することになっており、自己負担3割で医療サービスを受けることができるが、産業構造や日本人の年齢構成が変化し、医療が高度化していくなかで、この医療保険制度も様々な問題を抱えている。公的年金制度も、私たちが意識している以上に身近な存在だ。長生きをしてしまうリスクだけでなく、たとえば働き盛りに事故に遭遇し障害をおってしまうリスク、家族を遺して死亡してしまうリスクが発生した際に所得を保障する役割を持っている。しかし、人口構成の変化によって給付水準の維持が難しくなり、それが制度に対する国民の不安・不信をもたらすという悪循環や、非正規雇用の拡大にともなう国民年金の保険料未納問題など、公的年金制度が抱える問題も多い。果たして、多くの報道記事に見られるように日本の社会保障制度は信頼に値しないものなのだろうか。</p> <p>講義を通じ、社会保障制度とは何か、どのような理念に立つものか、現行制度の仕組みや問題点、どのような方向性が望まれるのかを考えることにより、この問題への答えの手がかりを得ることができるかもしれない。</p> <p>この講義では社会保障の問題を日本経済と結び付けて検討するというアプローチをとる。よって、1年時次に履修する日本経済概論、2年次に履修するマクロ経済学の知識を前提とする。社会保障関連支出を考えるにあたっては、政府の財政状況に関する知識（財政学）、経済統計で扱った統計に関する知識も必要になる。また社会保障制度には雇用・生活扶助に関するものも含まれるので、労働経済学にも重なる分野でもある。財政学、労働経済学の関連する分野については講義中に適宜説明を加えることを考えている。</p>		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会保障の意義について、受講生自身が、自分の意見を持つ。</li> <li>・ 日本の社会保障制度の枠組みを把握する。</li> <li>・ 公的年金、医療制度、公的扶助の概要を理解し、これらの制度改革に対する自分なりの意見を持つ。</li> </ul>		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> <p>板書について改善をもとめる意見が見られた。設備上の限界はあるが、今年度も板書等の文字は見やすいものになるよう心がけ、細かなデータはできるだけ配布資料にすると工夫を考える。</p> <p>マスク着用での連続した発声は体力を消耗するので、しっかり内容を講義できるよう、体力維持に努めたい。</p>		

<p><b>〔教科書〕</b> 特に指定しない。</p>	
<p><b>〔指定図書〕</b> ・ 椋野・田中『はじめての社会保障』（第18版）有斐閣，2021年3月末刊行予定。 ・ 小塩隆士『社会保障の経済学』（第4版）日本評論社，2013。</p>	
<p><b>〔参考書〕</b> ・ 西村淳編著『入門テキスト 社会保障の基礎』東洋経済新報社，2016。 ・ 小塩隆士『効率と公平を問う』日本評論社，2012。</p>	
<p><b>〔前提科目〕</b> マクロ経済学、財政学、労働経済学 など。 財政学、労働経済学に関連する分野については講義中に適宜説明を加える予定であるが、特に財政学は履修済みもしくは履修中であることが望ましい。</p>	
<p><b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b> ・ 理解度確認のためのクイズ ・ 小レポート ・ 期末試験（筆記）</p>	
<p><b>〔評価の基準及びスケール〕</b> 小レポート、クイズ、期末試験の合計の80%以上をA、70%以上80%未満をB、60%以上70%未満をC、50%以上60%未満をD、50%未満をFとする。</p>	
<p><b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b> 受講生の理解度を見ながら進度を決定するので、シラバスの通りには進まない可能性がある（制度改革の進捗状況にも左右される）。また、一つのテーマを複数時間に分けて講義するので、可能な限り出席するようにすること。出席はとらないが、出席していることが基本であるから、それを前提に講義を進める。  限られた授業時間数の中では、個別の社会保障制度について詳細に説明するのは難しく、また受講生にとっても講義のみで理解することは不可能だと思う。すくなくとも制度の概要程度は、指定図書を参考に、自ら把握するよう自習すること。椋野・田中『はじめての社会保障』は制度について詳細かつ丁寧に整理されている。 社会保障は、私達の生活に深い関わりあいを持っている。自分なりの興味や関心を持って、授業に臨んでほしい。</p>	
<p><b>〔実務経歴〕</b> なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ（何を学ぶか）： 社会保障とは何か 内 容： ガイダンス、社会保障の考え方（1） 社会保障とは何か、歴史的展開  教科書・指定図書 椋野・田中（2021年3月末刊行予定のため、該当する章については講義の中で説明する。以下、同様）、小塩（第1章）など</p>
第2回	<p>テーマ（何を学ぶか）： 内 容： 社会保障の考え方（2） 日本の社会保障制度の展開と時代背景  教科書・指定図書 椋野・田中</p>
第3回	<p>テーマ（何を学ぶか）： 内 容： 社会保障の考え方（3） 政府の介入が必要とされる理由、負担と給付のあり方  教科書・指定図書 小塩（第1章）</p>

第4回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 社会保障と国民負担・財政収支 (1)</p> <p>内 容 : 国民経済計算, マクロ統計からみた社会保障</p> <p>教科書・指定図書 小塩 (第2章)</p>
第5回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 社会保障と国民負担・財政収支 (2)、社会保障の担い手</p> <p>内 容 : 財政収支と国民負担 社会保障における実施主体</p> <p>教科書・指定図書 小塩 (第2章)</p>
第6回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 所得再分配に対する社会保障の役割</p> <p>内 容 : 日本の所得格差、再分配後の所得格差</p> <p>教科書・指定図書 小塩 (第3章)</p>
第7回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 社会保障制度の概要についてのまとめ</p> <p>内 容 : 社会保障制度の概要の確認 および クイズによる理解度の確認</p>
第8回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 公的年金制度</p> <p>内 容 : 公的年金制度の意義と体系、財政</p> <p>教科書・指定図書 棕野・田中, 小塩 (第4章)</p>
第9回	<p>テーマ (何を学ぶか) :</p> <p>内 容 : 公的年金制度の理念と仕組み</p> <p>教科書・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ (何を学ぶか) :</p> <p>内 容 : 公的年金制度の抱える問題点と制度改革</p> <p>教科書・指定図書 小塩 (第4～6章)</p>
第11回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 医療保険制度</p> <p>内 容 : 医療保険制度の理念と仕組み (1)</p> <p>教科書・指定図書 棕野・田中, 小塩 (第7章)</p>
第12回	<p>テーマ (何を学ぶか) :</p> <p>内 容 : 医療保険制度の理念と仕組み (2)</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ (何を学ぶか) :</p> <p>内 容 : 医療保険制度の抱える問題点</p> <p>教科書・指定図書 小塩 (第7・8章)</p>
第14回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 公的扶助</p> <p>内 容 : 生活保護制度の概要</p> <p>教科書・指定図書 棕野・田中</p>
第15回	<p>テーマ (何を学ぶか) :</p> <p>内 容 : 生活保護制度の課題</p> <p>教科書・指定図書 棕野・田中, 小塩 (第10章)</p>
試験	

<b>〔科目名〕</b> 経済特殊講義Ⅳ(経済学説史)	<b>〔単位数〕</b> 2単位	<b>〔科目区分〕</b>
<b>〔担当者〕</b> 中井 大介 Daisuke Nakai	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> 授業の前後で受け付けます。 <b>場所:</b>	<b>〔授業の方法〕</b>
<b>〔科目の概要〕</b> アダム・スミスにはじまり、マーシャルやケインズを経て現代へと至る、経済学の歴史を概観します。各回1～2名の重要な経済学者をピックアップし、彼らの学説とその現代的意義について検討します。とくに、ミクロ経済学とマクロ経済学が形成された歴史のプロセス、あるいは非主流の経済学の特徴などに注目します。		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか〕</b> 経済学が発展してきた歴史的経緯を学ぶことで、経済学の全体像を把握することが可能になります。また、ミクロ経済学とマクロ経済学のそれぞれの特徴や両者の関係などについても、より正確に理解することが可能になります。		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> ・中間目標 当面の目標は、経済学の誕生から現代へと至る経済学の歴史に関する基本的知識を、受講者各自が習得することです。 ・最終目標 長期的な目標は、数理的・理論的アプローチとは異なる、過去の経済学の思想的・哲学的アプローチから、現代の経済問題解決への糸口を探ることです。		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> 講義内容の改善、一部変更などを適宜行う予定です。また復習課題によって、講義内容の更なる定着を図ることも検討しています。		
<b>〔教科書〕</b> 毎回プリントを配布するため、教科書は使用しません。		
<b>〔指定図書〕</b> 特になし。		
<b>〔参考書〕</b> 授業中に読書案内として適宜紹介します。		
<b>〔前提科目〕</b> 特になし。		
<b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b> 講義中課題とレポート課題から総合的に評価します。		
<b>〔評価の基準及びスケール〕</b> 評価 得点比率 A 80%～100% B 70%～80%未満 C 60%～70%未満 D 50%～60%未満 F 50%未満		

<p><b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b>          配布のプリントとスライドを用いて授業を進めますが、講義内容をよりよく理解するためには適宜メモなどをとることが有用であると思います。また、講義スケジュールは変更する場合があります。</p>	
<p><b>〔実務経歴〕</b>          該当なし。</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): ガイダンス          内 容: 講義計画や目的について</p> <p>教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): スミスと経済学の誕生          内 容: 経済学誕生の歴史的背景やスミスの学説について</p> <p>教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): リカードとマルサス          内 容: リカード・マルサスの学説や穀物法論争・人口問題について</p> <p>教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): ミルと古典派経済学の完成          内 容: 古典派の特徴や定常状態について</p> <p>教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): マーシャルとミクロ経済学          内 容: ミクロ理論誕生の歴史的背景について</p> <p>教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): ピグーと厚生経済学          内 容: 厚生経済学のルーツについて</p> <p>教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): ケインズとマクロ経済学          内 容: マクロ経済学誕生の歴史的背景やケインズの学説について</p> <p>教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): マルクスと社会主義・共産主義          内 容: 社会主義誕生の歴史的背景やマルクスの学説について</p> <p>教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): ヴェブレンと大衆消費社会          内 容: 大衆消費社会の形成と顕示的消費のアイデアなどについて</p> <p>教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): シュンペーターとイノベーション          内 容: 創造的破壊などの概念やシュンペーターの経済社会観について</p> <p>教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント</p>

第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): サミュエルソンと新古典派総合          内 容: ミクロ経済学とマクロ経済学の関係について</p> <p>教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): フリードマンとマネタリズム          内 容: リバタリアニズムやマネタリズムの学説について</p> <p>教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): 前半のまとめ          内 容: 第2回から第7回の復習(課題研究によって実施します)</p> <p>教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): 後半のまとめ          内 容: 第8回から第12回の復習(課題研究によって実施します)</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): 全体のまとめ          内 容: 経済学説史全般について(課題研究によって実施します)</p> <p>教科書・指定図書</p>
試 験	<p>講義中課題とレポート課題から総合的に評価します。</p>



<b>〔科目名〕</b> 地域経営論	<b>〔単位数〕</b> 2単位	<b>〔科目区分〕</b> 専門科目
<b>〔担当者〕</b> 足達健夫	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> 後日掲示する <b>場所:</b> 1302号室	<b>〔授業の方法〕</b> 講義
<b>〔科目の概要〕</b> <p>人口減少時代を迎えるにあたり、地域をどのような姿にしていく（経営していく）べきかを考える。「地域を経営する」といっても、地域を構成する要素は多岐にわたり、「この方法をとれば、かならずこういう結果が出る」という方程式があるわけではない。しかし、この分野で学んでおくべき概念や考え方、制度、用語、事例はある。本科目ではなるべく網羅的に、基本的かつ重要なものを取りあげる。</p> <p>講義は、現在の地方都市が直面する状況からはじまり、都市空間、交通、環境、観光などのテーマについて解説する。いずれのテーマにも共通するのは、それらが住民にとってなにを意味するかである。この「住民の視点」を、全体を貫くもうひとつのテーマとして講義を進める。</p>		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか〕</b> <p>本科目の対象は地域社会に住み、地域社会をつくる担い手を想定している。ここで学ぶことは、将来、行政や地域企業で、地域に関わる仕事に取り組む際に最低限必要な考え方・知識である。「住み」、「つくる」ことは、すべての地域住民がやっていることだが、本科目の履修者は、学術的な知識に裏付けられた上で、明確な意図を持ってそれを行うことになる。</p>		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> <p>「地域経営」が、どのような場面で、どのような考え方によってなされているかを、具体的に説明できること。それに関連するさまざまな事例に言及できること。</p>		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> <p>その日の講義の要点をより具体的に整理できるようにした。</p>		
<b>〔教科書〕</b> <p>特に定めない。</p>		
<b>〔指定図書〕</b> <p>特に定めない。</p>		
<b>〔参考書〕</b> <p>特に定めない。講義中に随時、文献を紹介することがある。</p>		
<b>〔前提科目〕</b> <p>なし。</p>		
<b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b> <p>(1) 定期試験の点数で評価する。出席に関する下記の条件をクリアしていても、欠席が多い場合は定期試験の点数よりも低い評価を与えることがある。</p>		

(2)理由にかかわらず、6回欠席した時点でF評価とし、定期試験の受験を認めない。	
〔評価の基準及びスケール〕  A:80%以上 B:70～79% C:60～69% D:50～59% F:50%未満	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕  講義中、学生一人ひとりに随時、試問／質問をする。自由、柔軟な発想で考えを述べたり、わからないときは「なにがわからないか」を考え述べるなど、教員とのコミュニケーションにより、ともに講義をつくる姿勢を望む。	
〔実務経歴〕  該当なし	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): 人口減少と地域社会(1) 内 容: 日本・世界における人口の傾向、合計特殊出生率と影響要因
第2回	テーマ(何を学ぶか): 人口減少と地域社会(2) 内 容: 地域における人口動態、地方版「人口ビジョン」「まち・ひと・しごと創生総合戦略」
第3回	テーマ(何を学ぶか): 公共施設 内 容: 公共施設とは、施設数の推移、自治体の財政、総合的な管理計画、住民の視点と活動、インフラストラクチャーとは、インフラの外部経済性、評価手法の重要性と事例
第4回	テーマ(何を学ぶか): 市街地の形成(1) 内 容: 都市化、都市の誕生と成長
第5回	テーマ(何を学ぶか): 市街地の形成(2) 内 容: 地域モデル、都市の構造
第6回	テーマ(何を学ぶか): 市街地の形成(3) 内 容: 中心市街地の問題と活性化、コンパクトシティと市街地の誘導
第7回	テーマ(何を学ぶか): 地域と交通(1) 内 容: 交通と都市構造、交通と中心市街地
第8回	テーマ(何を学ぶか): 地域と交通(2) 内 容: 都市交通の問題、自動車交通と公共交通、歩行者環境

第9回	テーマ(何を学ぶか): 地域と交通(3) 内 容: 地域に与える影響、交通まちづくり
第10回	テーマ(何を学ぶか): 地域環境(1) 内 容: 環境破壊とはなにか、自然環境の価値
第11回	テーマ(何を学ぶか): 地域環境(2) 内 容: 積極的/消極的な層、環境保護と地域雇用、「見返りのある保護」、事例
第12回	テーマ(何を学ぶか): 観光(1) 内 容: 観光動態、エコ・ツーリズム
第13回	テーマ(何を学ぶか): 観光(2) 内 容: 地域資源としての世界遺産、観光形態の変化
第14回	テーマ(何を学ぶか): 地域プロモーション(1) 内 容: フィルム・コミッション、地域イメージのコーディネート
第15回	テーマ(何を学ぶか): 地域プロモーション(2) 内 容: 地域プロモーション、メディアの活用、事例
試験	期末試験。試験範囲はすべての講義内容が対象。

<b>〔科目名〕</b> 地域の産業Ⅱ	<b>〔単位数〕</b> 2単位	<b>〔科目区分〕</b>
<b>〔担当者〕</b> (まつだ えいじ) 松田 英嗣	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> <b>場所:</b>	<b>〔授業の方法〕</b>
<b>〔科目の概要〕</b> <p>経済への興味を惹きながら、地域経済・産業を概観します。          地元金融機関出身で、現在は地域シンクタンク勤務の講師が本科目を担当します。          毎回、授業前半の30分程度は、日本経済新聞などの経済関連記事をもとに、経済の仕組みや当該記事の意味を受講生の皆さんと考えながら、地域経済や産業を見る目を養います。          授業後半は、地域産業を概観するとともに、地域が抱える課題と地域産業のかかわりなどについて学びます。</p>		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか〕</b> <p>社会はダイナミックな変化の只中にあります。          学生の皆さんが、今後社会に出て数十年を過ごす中では、これまで誰も直面したことのない正解のない課題に数多く遭遇することが想定されます。          そうした局面においては、しっかりと自分なりの見方、考え方を持つ力が求められます。          本授業では、産業・経済を切り口としながら、正解のない課題に対応するための考え方を身に着けます。</p>		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> <p>中間目標: 経済系学部生として、当然に身に着けるべき力として、日本経済新聞を自力で読むための知識を習得する          最終目標: 多様な経済ニュースに対して、自分なりの解釈ができる応用力を身に着ける</p>		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> <p>エアコン温度調整、新型コロナ対策、マスク着用時の声のトーンに配慮します          暗記ではなく、考える時間に重点を置きます</p>		
<b>〔教科書〕</b> 講師が都度レジメを準備します		
<b>〔指定図書〕</b> 必要に応じ都度提示します		
<b>〔参考書〕</b> 必要に応じ都度提示します		
<b>〔前提科目〕</b> なし		
<b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b> 出席状況を含む授業の取り組み姿勢 30%、記述試験 70%の割合で総合的に評価します		

<b>〔評価の基準及びスケール〕</b> 評価スケールは大学のスタンダードを基準にします	
<b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b> 受講者の理解と興味を深めるため、経済の話をも簡潔に理解できるよう努めるとともに、可能な限り実務経験に基づいた事例や最新の経済ネタを取り上げます。 また、極力受講者との双方向性を確保する授業スタイルとしたいと思います。	
<b>〔実務経歴〕</b> 地域金融機関および金融系シンクタンク	
<b>授業スケジュール</b>	
第1回	テーマ(何を学ぶか): ガイダンス 内 容: 授業の進め方説明 日本経済新聞の読み方  教科書・指定図書 : 教員作成
第2回	テーマ(何を学ぶか): 経済の見方1 内 容: 経済とは何か(経済に慣れる)  教科書・指定図書 : 教員準備
第3回	テーマ(何を学ぶか): 経済の見方2 内 容: 需要と供給から経済を考える(経済的考え方に慣れる)  教科書・指定図書 : 教員準備
第4回	テーマ(何を学ぶか): 経済の見方3 内 容: 地域産業と人口減少(人口減少のインパクトを考える)  教科書・指定図書 : 教員作成
第5回	テーマ(何を学ぶか): 青森県の産業・経済1 内 容: 青森県経済を俯瞰する(「県民経済計算」の見方)  教科書・指定図書 : 教員作成
第6回	テーマ(何を学ぶか): 青森県の産業・経済2 内 容: ビジネスモデルを考える(コンビニエンスストアやリンゴ産業からビジネスモデルを考える)  教科書・指定図書 : 教員作成
第7回	テーマ(何を学ぶか): 青森県の産業・経済3 内 容: 攻めの農林水産業を考える(県農業をもとに「特化係数」を使いこなす)  教科書・指定図書 : 教員作成
第8回	テーマ(何を学ぶか): 青森県の産業・経済4 内 容: 製造業の可能性を考える(「経済波及効果」の考え方をマスターする)  教科書・指定図書 : 教員作成
第9回	テーマ(何を学ぶか): 青森県の産業・経済5 内 容: 三次産業の中で小売業を考える(買い物難民をどうする)  教科書・指定図書 : 教員作成
第10回	テーマ(何を学ぶか): 青森県の産業・経済6 内 容: 観光関連産業を考える(なぜ数少ない成長産業として期待されるのか)  教科書・指定図書 : 教員作成

第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): 青森県の産業・経済7          内 容: IT 産業を考える(IT で地域課題解決を図る企業を紹介)</p> <p>教科書・指定図書 :教員作成</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): 青森県の産業・経済8          内 容: 地方創生と地域おこし活動(地方創生の中で輝きを増す活動を紹介)</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): 青森県の産業・経済9          内 容: 地域金融機関と労働需給</p> <p>教科書・指定図書 :教員作成</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): 復習・まとめ          内 容: 1～13 回の授業内容を振り返る</p> <p>教科書・指定図書 :教員作成</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): 復習・まとめ          内 容: 1～13 回の授業内容を振り返る</p> <p>教科書・指定図書 :教員作成</p>
試験	

<b>〔科目名〕</b> <p style="text-align: center;">地域 ICT 戦略論</p>	<b>〔単位数〕</b> <p style="text-align: center;">2 単位</p>	<b>〔科目区分〕</b> <p style="text-align: center;">専門科目</p>
<b>〔担当者〕</b> <p style="text-align: center;">木 暮 祐 一 Yuichi Kogure</p>	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> 最初の講義で提示 <b>場所:</b>	<b>〔授業の方法〕</b> <p style="text-align: center;">講義</p>
<b>〔科目の概要〕</b> <p>コンピュータやスマートフォンといった情報通信機器やインターネット、通信ネットワークなど、情報通信技術(ICT)の進歩と普及は、私たちの社会生活にはさまざまな利便性をもたらし、またあらゆる産業における効率化に大きく寄与してきた。さらには、こうした ICT が世界的規模で社会経済構造の変化をもたらしている。我が国の場合、政府が重点政策として平成13年1月、内閣に「高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部(IT戦略本部)」を設置して以降、現在に至るまで ICT 関連政策を打ち出しインフラ整備や法整備、利活用推進を行ってきた。内閣府は重点的に取り組むべき施策として Society 5.0 の具体化を掲げている。ICT は地域の課題解決にも大きく貢献しており、地域レベルでもさまざまな ICT 利活用の取り組みが見られ、地域社会の発展の一助となっている。</p> <p>本講義では、こうしたICT動向についてその背景や目的などの理解を深めると共に、ICTの利活用が産業や社会にどのような発展をもたらしているか、さらに地域での利活用でどのような成果を出せるのかなどを学んでいく。</p>		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</b> <p>本講義は、内外の最新ICT動向や、その地域における利活用事例などを中心に、ICT の普及が社会にもたらしてきたことや、ICT をどのように活用すべきなのかを理解していくことを目的としている。コンピュータやスマートフォン、それらの上で利用されるインターネットなど、現代において ICT の利活用は不可欠となっている。さらに最近では IoT に総称される各種センサーデバイスやウェアラブル端末、ロボット、ドローン、そして AI(人工知能)等の利活用など、新たな手法も見受けられるようになってきた。ICT はあくまで手段である。しかし ICT を理解していなければ実社会で使いこなせない。ICT は進化・変化が早くこうした動向を理解し、それらをどのように活かしていくかを理解しておくことは、今後社会に出てから様々な場面で役立てることができるはずである。</p>		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> <p>ICT は、あらゆる産業に深く関わりを持っており、あらゆる分野で業務を遂行するのに欠かせない「手段」となっている。そこで講義前半は、主要産業別どのような ICT の利活用が求められ、それに関わる政策が打ち出され、その結果どのような成果を出しているのかを理解する。後半は、内外の最新 ICT 事情などを知ること、戦略的に ICT 利活用を展望できる知識を身につけていただきたい。また地域の活性化という視点で、ICT で何ができるのか提案できる素養を身につけてもらいたい。地域社会で活躍しようとしている皆さんに対し、地域社会活性化のために ICT を応用できる知識も提示していきたい。</p>		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> <p>これまでの講義では、理論の部分の解説が多かったが、今後は積極的に事例を盛り込み、理解しやすくするための工夫をしていく。</p>		
<b>〔教科書〕</b> <p>とくに指定しない。講義にはスライドを使い、スライドのデータや必要な資料は PDF 形式にて配布する。</p>		
<b>〔指定図書〕</b> <p>講義の中で必要に応じて案内する。</p>		
<b>〔参考書〕</b> <p>講義の中で必要に応じて案内する。</p>		
<b>〔前提科目〕</b> <p>地域 ICT 基礎論を履修していること。</p>		

<p><b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b>          期末試験(またはレポート)で評価する。また講義内で小テストや小レポートも課す。期末試験で評価することを基本とし、講義内小テスト等は理解度の参考とする。</p>	
<p><b>〔評価の基準及びスケール〕</b>          各講義で展開した内容を理解しているかどうかの評価ポイントとなる。十分に理解できているとした評価で「C」、さらに独自の視点を持てていれば「B」、とくに優れた成果と評価した場合「A」とする。基準を満たせなければ「C」以下の評価となる。</p>	
<p><b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b>          担当教員は、これまで ICT 業界に携わり、また客観的な視点から国内各業界の ICT 利活用、とくにモバイルなどの通信技術の活用に関する知見を広めてきた。こうした経験や知識を講義に展開していきたい。講義では、学生諸君の身近な ICT(たとえばスマートフォンなど)を事例に話題を展開し、理解を深められるよう工夫する。ICT の活用について関心を高めていただくきっかけとなる講義を目指したい。また、日頃からコンピュータや各種情報端末、インターネットなどの使いこなしができていると、講義を一層理解しやすくなる。</p>	
<p><b>〔実務経歴〕</b>          マスコミ、および情報通信業での実務経験を活かし、情報通信技術の進展と情報通信ネットワークの普及によって起こっている社会の変化について理解を深め、それらを地域で役立てるための基礎力を養い、また社会人になった際にそれら知識を実践的に活かせる講義を目指す。</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): ICT をめぐる全般的概況について          内 容: 情報通信技術(ICT)の理解、情報通信産業の理解、情報通信産業と他産業との位置づけ、進化が著しい ICT 動向における最新の全般的概況について理解する          教科書・指定図書 資料配布予定</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 政府の ICT 関連政策の動向、地方創生政策と ICT          内 容: 政府の各政策の目的や成果について理解する。とくに第二次安倍内閣では地方創生を重要なテーマに掲げて政策を進めているが、その中でも ICT の利活用に重きが置かれている。地方の活性化に ICT がどのような役割を果たすか、そしてどんな未来を目指しているのかを解説する(Society 5.0 など)。          教科書・指定図書 資料配布予定</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): ICT による就労・労働環境の変化          内 容: ネットワークの利活用が日常化した現在、私たちのワークスタイルも大きく変化してきた。就労・労働環境に ICT がどのような影響をもたらしたかを理解する。現在、政府が「働き方改革」を提唱しているが、そこに ICT をどのように活用するのかを考える。          教科書・指定図書 資料配布予定</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): ICT と教育・サービス産業          内 容: 教育分野における ICT 利活用について、世界の主要国の事情を紹介する。また ICT の普及によって私たちはより深い情報リテラシーが求められてきている。現代社会においてどのような情報リテラシーが求められるのかを考える。          教科書・指定図書 資料配布予定</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): ICT と医療・福祉・健康産業          内 容: 医療・福祉・健康産業分野における ICT 利活用は重点政策となっているが、これらを今後普及させるための鍵となる法整備などの問題について論じる。遠隔医療や救命救急分野での活用についても触れる。とくに遠隔医療は中国などで先事例が見られるが、一方でわが国では進展しない理由を考える。          教科書・指定図書 資料配布予定</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): モバイルマーケティング、ウェブマーケティング(O2O～OMO)          内 容: 常に手のひらにあるスマートフォン等のモバイル機器の有用性を考える。とくにソーシャルネットワークワーキングサービス(SNS)を活用した、マーケティングやブランディングの事例、顧客を企業や店舗に誘導(O2O)する具体事例、その周辺の技術、最新サービス動向を理解する。          教科書・指定図書 資料配布予定</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): DX(デジタルトランスフォーメーション)          内 容: デジタイゼーションからデジタルトランスフォーメーションへ考え方をシフトし、社会を変革させていく必要がある。事例をもとに、デジタルトランスフォーメーションの考え方を理解する。          教科書・指定図書 資料配布予定</p>



第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): ポストモバイル、ウェアラブルとIoT (Internet of Things)</p> <p>内 容: モバイルの普及に加え、さらに身体に密着させて活用する「ウェアラブル端末」や、単体でインターネットにつながり情報利活用を行う「IoT (Internet of Things、モノのインターネット)」を理解する。</p> <p>教科書・指定図書 資料配布予定</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): 位置情報衛星(GPS、QZSS)の活用</p> <p>内 容: これまで使われてきたGPSに加え、わが国独自の位置情報衛星(準天頂衛星)が稼働を始めている。これらの位置情報を活用することで、地域でどのような応用が可能になるのかを解説する。</p> <p>教科書・指定図書 資料配布予定</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): ロボットとAI(人工知能)</p> <p>内 容: 人型ロボット「Pepper」の一般販売開始、そしてAI(人工知能)技術の応用など、ICT利活用は大きく進化が進んできている。それらの動向を理解する。</p> <p>教科書・指定図書 資料配布予定</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): ドローンの利活用とその先に起こること</p> <p>内 容: ドローン(無人航空機)は、空撮だけにとどまらず、測量や農業ICT、救命救急分野など、様々な活用が期待されている。さらに近い将来には新たな空の移動手段として人の移動にも利用されるとされる。それらの動向を解説する。</p> <p>教科書・指定図書 資料配布予定</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): 自動運転技術の展望 MaaS</p> <p>内 容: 2016年1月15日以降、わが国でも自動追尾、自動ハンドルなどの自動運転機能の一部が公道で利用可能になっている。自動運転技術の動向とその応用、地方での利活用について論じる。</p> <p>教科書・指定図書 資料配布予定</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): ICTの地域での活用事例(1)</p> <p>内 容: 地域振興や観光客誘致など、さまざまところでICTを活用した取り組みが見られるようになった。まず地域でのICT利活用の基本的手技について理解する。</p> <p>教科書・指定図書 資料配布予定</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): ICTの地域での活用事例(2)</p> <p>内 容: 地域でのICT利活用事例を紹介する。</p> <p>教科書・指定図書 資料配布予定</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): 今後のICT戦略と技術展望</p> <p>内 容: ICTの利活用は今後も発展と普及が期待される。とくに2020年に向けてわが国ではどのようなICT環境を目指しているのか、どのような課題が見受けられるかを理解する。</p> <p>教科書・指定図書 資料配布予定</p>
試験	<p>期末試験を実施する(受講者の人数によってはレポートに変更する場合がある)。</p>

<b>〔科目名〕</b> 地域みらい特殊講義Ⅱ	<b>〔単位数〕</b> 2単位	<b>〔科目区分〕</b> 展開科目
<b>〔担当者〕</b> 柏谷 至 KASHIWAYA Itaru	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> 授業開始前・終了後各 30 分程度 <b>場所:</b> 講師控室	<b>〔授業の方法〕</b> 講義
<b>〔科目の概要〕</b> <p>この授業のテーマは、「エネルギーから見た地域社会論」です。</p> <p>エネルギーは、私たちの生活に必要な不可欠な要素であり、エネルギーの利用形態によって地域社会のありようは大きく変化します。近年では、地球温暖化や原発事故のようなグローバルな課題だけでなく、エネルギー費用が地域外に流出することによる地域経済への影響なども問題視されるようになってきました。こうした状況のもとで、地域にあるエネルギー資源を活かし、地域に利益が残るかたちで利用する「エネルギー自立」の考え方が広まりつつあります。</p> <p>青森県は、冬期間の暖房を中心にエネルギー消費量が全国より多く、特に化石燃料への依存度が高いという特徴があります。豊かな自然環境を背景に再生可能エネルギーのポテンシャルが高い一方で、地域外資本による開発事例が多く、地域社会に利益が十分に還元できていないことも課題です。</p> <p>授業担当者は環境社会学者として教育・研究に従事しながら、「自然エネルギーを通じた循環型社会の実現と地域の自立」をミッションとするNPOの理事長を務めています。この授業では県内外の事例を紹介しながら、地域のエネルギー自立に向けた現状と課題、将来展望を考えます。</p>		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</b> <p>エネルギーというと、科学技術の問題（いわゆる「理系」の人が考えること）と考えられがちですが、地域のエネルギーを考える際には、人々の意識から生活、組織、経済や制度・政策にわたるさまざまな側面を、トータルに考える必要があります。この授業は「特殊講義」のひとつとして、地域の社会・経済・政策に関して皆さんが今まで学んできたことを活用し、地域の未来について自ら考える機会と位置づけられます。</p>		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> <p>最終目標:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギーの観点から地域の現状・課題を把握し、解決策を提案できるようになる</li> </ul> <p>中間目標:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギーと地域社会との関係についての基本的な知識を身につける</li> <li>・「エネルギー自立」の考え方とその手法を理解する</li> <li>・自らが住む地域の現状や課題を、エネルギーの問題と結びつけて考えることができるようになる</li> </ul>		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> <p>2020 年度の授業評価をうけ、講義や授業資料の配付、課題の提出・添削等に、情報通信機器を積極的に活用していきたいと思います。</p>		
<b>〔教科書〕</b> <p>特に指定しません。</p>		
<b>〔指定図書〕</b> <p>特に指定しません。</p>		
<b>〔参考書〕</b> <p>枝廣 淳子 2018 『地元経済を創りなおす—分析・診断・対策』 岩波書店。          藻谷 浩介・NHK 広島取材班 2013 『里山資本主義—日本経済は「安心の原理」で動く』 角川書店。          田中 信一郎 2018 『信州はエネルギーシフトする—環境先進国・ドイツをめざす長野県』 築地書館。</p>		
<b>〔前提科目〕</b> <p>特に指定しません。</p>		

<p><b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b></p> <p>各回の授業では、次回の授業の予習となる課題を出します。課題の内容としては、テーマに関する短いテキストや動画を見たり、皆さんの身近なエネルギーについて調べたりして、ワークシートに記入して提出してもらう予定です。</p> <p>また、毎回の授業の最後には、その日の講義内容に関する質問の時間を取ります。質問者には、質問内容とそれへの答え、質問をしてみた感想を提出していただきます。15回の講義の中で、2回以上質問することを義務づけます。</p> <p>この授業の最終評価物として、再生可能エネルギーや省エネルギーを活用して地域の課題を解決するための企画提案を、レポートとしてまとめてもらいます。15回の授業の後半は、レポート作成に向けたワークシートを作成・提出してもらいます。</p> <p>以上の4点、すなわち(1)予習ワークシートの提出、(2)授業中の質問、(3)企画提案ワークシートの提出、(4)最終レポートの内容を総合して、この授業の評価とします。</p>	
<p><b>〔評価の基準及びスケール〕</b></p> <p>各評価項目は、予習ワークシートの提出10点、授業中の質問20点、企画提案ワークシートの提出10点、最終レポートの内容60点で点数化します。なお、最終レポートは、(1)テーマ設定の独創性、(2)企画としての実現可能性、(3)レポートの文章力と資料活用の適切性、から評価します。</p> <p>100点満点の評点を、大学の成績評価基準に従ってA～Fのグレードに評価します。</p>	
<p><b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b></p> <p>この授業では、単にエネルギーに関する知識を伝えるだけでなく、地域の課題に取り組むことの面白さや難しさを学生に体験してもらいたいと思っています。そのため、授業方法として講義形式のほか、ワークショップや学生による企画立案・プレゼンテーションを取り入れる予定です。</p> <p>学生には、授業中および授業外学習での主体的な参加を期待します。</p>	
<p><b>〔実務経歴〕</b></p> <p>該当なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか)： エネルギーから地域社会を考える (イントロダクション)</p> <p>内 容： エネルギー自立を目指す地域の取り組みの実例を紹介し、この授業全体のねらいを示すとともに、授業の進め方や学修内容、評価方法などについてイントロダクションを行う。</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 再生可能エネルギーと地域社会(1)</p> <p>内 容： 代表的な再生可能エネルギーとしての風力発電の特徴と、それを活用した地域活性化の取り組みについて学ぶ。</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 再生可能エネルギーと地域社会(2)</p> <p>内 容： 代表的な再生可能エネルギーとしての太陽光発電の特徴と、それを活用した地域活性化の取り組みについて学ぶ。</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 再生可能エネルギーと地域社会(3)</p> <p>内 容： 代表的な再生可能エネルギーとしてのバイオマスエネルギーの特徴と、それを活用した地域活性化の取り組みについて学ぶ。</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 省エネルギーと地域社会</p> <p>内 容： 代表的な省エネルギーの取り組みとして、住宅の高気密・高断熱化によって快適性と省エネルギーとを両立させる取り組みについて学ぶ。</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか)： エネルギーと地域社会 (中間まとめ)</p> <p>内 容： これまでの講義を振り返りながら、エネルギーと地域社会との関わりや、再生可能エネルギー・省エネルギーを地域課題の解決に結びつける方法論を学ぶ。</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか)： ワークショップ(1)</p> <p>内 容： ワークショップを通じて、再生可能エネルギーと省エネルギーを地域課題の解決に役立てる手法を自ら体験する。</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 地域エネルギー事業の実際(1)</p> <p>内 容： 地域事業の企画・立案の出発点となる地域資源の種類や規模、資源利用に当たっての制約条件について学ぶ。</p>

第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域エネルギー事業の実際(2)</p> <p>内 容: 地域エネルギー事業を運営していく際のビジネスモデルや収益構造・コスト構造や、資金計画について学ぶ。</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域エネルギー事業の実際(3)</p> <p>内 容: 地域エネルギー事業を運営する主体と組織形態、ステークホルダーとの関係、法的規制と政策について学ぶ。</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): ワークショップ(2)</p> <p>内 容: ワークショップを通じて、最終レポート作成に向けた企画のアイデア出しと相互評価を行い、エネルギーを通じた地域課題の解決を実践するためのトレーニングをする。</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): エネルギー自立の思想と実践</p> <p>内 容: エネルギー自立の考え方が登場してきた背景や先駆的な実践例を紹介し、エネルギー自立の基礎概念について学ぶ。【企画提案ワークシート提出日 (予定)】</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): エネルギーから見た地域社会の未来(1)</p> <p>内 容: 受講者が企画立案した地域エネルギー事業プランを発表し、最終レポートに向けたブラッシュアップを図る。</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): エネルギーから見た地域社会の未来(2)</p> <p>内 容: 受講者が企画立案した地域エネルギー事業プランを発表し、最終レポートに向けたブラッシュアップを図る (第14回の続き)。</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): エネルギーから見た地域社会の未来(3)</p> <p>内 容: 前回までに発表された地域エネルギー事業プランを振り返りながら、この授業で学んできたエネルギーと地域社会との関わりについて、総括的な議論を行う。</p>
試験	レポート

<b>〔科目名〕</b> 経営革新論	<b>〔単位数〕</b> 2 単位	<b>〔科目区分〕</b>
<b>〔担当者〕</b> 生田泰亮 Ikuta Yasuaki	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> 後ほど指示します。 <b>場所:</b> 1305 研究室 (大学院棟)	<b>〔授業の方法〕</b> 講義
<b>〔科目の概要〕</b> 経営において、新たな視点や価値を見出すものとしてのイノベーションは、その実現可能性や持続可能性をも問わなくてはならない。こうした意味から「事業創成のプロセスとしてのイノベーション」を学ぶことは、やがてビジネス・リーダーとして期待されるみなさんにとって、学んでおくべき重要な内容である。 前半数回は、シュンペーター、ドラッカー等をもとに、イノベーション本来の意味、イノベーションが経営や経済に与える影響について講義する。中盤からは、「事業創成の理論(小林敏男『事業創成 イノベーション戦略の彼岸』有斐閣、2014 年。)」をもとに「イノベーションと事業」の関係を講義する。様々な事業での実践例をもとに、創造的な技術やアイデアが持続可能な事業と成るまでのプロセスを学び、真のイノベーションとは何かを考える。 後半は、ビデオ学習により、学んだ概念やモデルの理解度を深めることとする。 また、秋学期開講の「事業創造論」と大いに関連性があるので、履修の際は、両講義ともに受講することを強く推奨する。		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</b> 経営経済の問題を考える際に「イノベーション」は、よく耳にする言葉であるが、本講義では、イノベーションの本来の意味を理解し、現代企業の事業戦略をしっかりと学習し、戦略的発想力、戦略策定力を身につけてほしい。		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> 中間目標:様々な企業の事業戦略を読み解く力を身につける。 最終目標:事業創成(事業の創造から実行可能性、持続可能性まで)を考える力を身につける。		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> 専門用語等で難しいとの意見がありますが、使用している教科書のレベルが極端に難解であるということはありません。むしろわかりやすい教科書です。わからないことは、講義中、講義終了後、オフィスアワーなど遠慮なく質問どうぞ。		
<b>〔教科書〕</b> 小林敏男『事業創成 イノベーション戦略の彼岸』有斐閣、2014 年。 他、適宜資料を配布する		
<b>〔参考書〕</b> 伊丹敬之『先生、イノベーションって何ですか?』PHP 研究所、2015 年。 J.A.シュンペーター著、清成忠男編訳『企業家とは何か』東洋経済新報社、1998 年。 P.F.ドラッカー著、上田惇生編訳『イノベーションと企業家精神【エッセンシャル版】』ダイヤモンド社、2015 年。 C.クリステンセン著、玉田 俊平太 監修、伊豆原 弓 翻訳『イノベーションのジレンマ—技術革新が巨大企業を滅ぼすとき [増補改訂版]』翔泳社 2001 年。 A.ガロー、M.A.クスマノ著、小林敏男監訳『プラットフォーム・リーダーシップ—イノベーションを導く新しい経営戦略』有斐閣、2005 年。 G.A.ムーア著、川又政治訳『キャズム Ver.2 増補改訂版 新商品をブレイクさせる「超」マーケティング理論』翔泳社、2014 年。 M.E.ポーター著、竹内弘高訳『[新版] 競争戦略論 (I) (II)』ダイヤモンド社、2018 年。 O.E.ウィリアムソン著、浅沼萬里、岩崎晃訳『市場と企業組織』日本評論社、1980 年。		
<b>〔参考書〕</b> なし		
<b>〔前提科目〕</b> 経営学基礎論、地域企業論 I、II を履修し単位取得していること。		
<b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b> 小レポート (50%) ※複数回実施する予定。詳細は講義内で説明する。 学期末の定期試験 (50%) ※無断欠席は評価の際に減点とする。		
<b>〔評価の基準及びスケール〕</b> 80%以上 A      79-70% B      69-60% C      59-50% D      49%以下 F		

<p><b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b>  事例においては、かなり難解な技術について取り上げることになる場合もあります。この点、丁寧に説明するよう心がけますが、予習をしっかりとしてください。様々なイノベーションの事例を学び、柔軟な思考力を養って欲しいと考えています。質問や学習相談などは遠慮なく。</p>	
<p><b>〔実務経歴〕</b>  該当なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): イントロダクション  内 容: 講義内容と進め方について (※講義についての説明を行うのでシラバス持参のこと)</p> <p>教科書・指定図書</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): シュンペーターのイノベーション論(1)  内 容: 経済発展と経営者、企業者の役割</p> <p>教科書・指定図書</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): シュンペーターのイノベーション論(2)  内 容: 新結合としての5つのパターン</p> <p>教科書・指定図書</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): ドラッカーのイノベーション論(1)  内 容: イノベーションのための7つの機会</p> <p>教科書・指定図書</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): ドラッカーのイノベーション論(2)  内 容: イノベーションと企業家精神</p> <p>教科書・指定図書</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 事業創成の理論(1)  内 容: 教科書 第1章 古典的戦略論</p> <p>教科書・指定図書</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 事業創成の理論(2)  内 容: 教科書 第2章 イノベーションのジレンマ</p> <p>教科書・指定図書</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): 事業創成の理論(3)  内 容: 教科書 第3章 オープンイノベーションへの展開</p> <p>教科書・指定図書</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): 事業創成の理論(4)  内 容: 教科書 第4章 プラットフォーム・リーダーシップ</p> <p>教科書・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 事業創成の理論(5)  内 容: 教科書 第5章 キャズムの発見</p> <p>教科書・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): 事業創成の理論(6)  内 容: 教科書 第6章 エコロジカルニッチの薦め</p> <p>教科書・指定図書</p>

第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):事業創成の理論(7)</p> <p>内 容:教科書 補論 組織間関係の経済学</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):ケース・スタディ(1)</p> <p>内 容:ビデオ学習を予定</p> <p>教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):ケース・スタディ(2)</p> <p>内 容:ビデオ学習を予定</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):講義全体のまとめ</p> <p>内 容:</p> <p>教科書・指定図書</p>
試験	<p>有(詳細は後日、指示する)</p>

<b>〔科目名〕</b> フィールドリサーチⅡ	<b>〔単位数〕</b> 2単位	<b>〔科目区分〕</b> 選択
<b>〔担当者〕</b> 足達健夫、飯田俊郎、生田泰亮、遠藤哲哉、 香取薫、佐々木てる、安田公治	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間：</b> オリエンテーション時に紹介する <b>場所：</b> 各演習指定の教室	
<b>〔科目の概要〕</b> <p>本講座は、「知の挑戦Ⅱ」と結びつき、その演習を基礎にして自らの問題を発見するために、「知の挑戦Ⅱ」の指導教授との連携・協力によって、フィールドを通じた調査研究を促し、学生自らの問題発見に広がりを持たせるものである。つまり、各ゼミ演習と連動しつつ、フィールド演習主体の授業が行われる。また、企業や行政、NPOなどにおけるインターンシップ的な要素を併せ持つ。</p>		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・「なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか」</b> <p>少人数演習を重視した地域みらい学科の特徴は、1年生から始まるフィールドワークであり、実体験を重視し、個性を磨き、自分で掲げた課題に向け、自らの経験を通じて知を取得するというものである。そのため、1年次の必修では、自己の探究、自分知の探究、科学への探究といった演習科目が設定されている。2年次の知の挑戦Ⅰを経て、3年次においては、知の挑戦Ⅱが設定され、少人数演習科目が設置されている。本科目は、この知の挑戦Ⅱと関連して設定されている。また、インターンシップ的な要素も導入しており、各指導教官の考えに沿って内容が構成される。</p>		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> <p>最終目標：フィールドワークを通して醸成された問題意識を、専門的な考え方あるいは様々な知見から整理し、より深く考える態度を身につける。          中間目標：フィールドワークを通して、好奇心と“なぜ”の思考を発酵させ、周りの世界に目を凝らし、問題意識を高め、研究へのモチベーションを高める。</p>		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b>		
<b>〔教科書〕</b> オリエンテーション及び演習時に各指導教官の専門分野に基づいて紹介する		
<b>〔指定図書〕</b> オリエンテーション及び演習時に各担当指導教官の専門分に基づいて紹介する		
<b>〔参考書〕</b> オリエンテーション及び演習時に各担当指導教官の専門分野に基づいて紹介する		
<b>〔前提科目〕</b> なし		
<b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b> オリエンテーション時に各担当指導教官から説明する		



〔評価の基準及びスケール〕

オリエンテーション時に各担当指導教官から説明する

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

本講座は、「知の挑戦Ⅱ」の指導教授との連携・協力によって、フィールドを通じた調査研究を促し、学生自らの問題発見に広がりを持たせるものである。フィールドワークに関心があり、真摯な態度で科目履修ができることが求められる。

フィールドワークは、各指導教官の方法に委ねられるが、基本的には、他の授業と重ならない時間帯を活用するため、土日、祝日などにまとめて実施することが基本となる。基本的な履修スケジュールは以下のようなもの

である。しかし、これはあくまでも標準であり、各指導教官の下で、具体的なスケジュールが決定されるものとする。全体で4日間で標準である。1回(1日)目は、1. 5時間×4時限分=6時間(オリエンテーション含む)、2回目 1.5時間×3時限=4.5時間、3回目 1.5時間×4時限=6時限、4回目 1. 5時間×4時限分=6時間(最終報告含む)を目安とする。ただし、まとめて実施することによって1日当たりの時間が代わり、回数(日数)も変わりうるものである。

授業スケジュール(以下は、標準的なスケジュールであり、具体的には各教官ごとに異なる)

第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): フィールドワークが目指すもの、内容の提示 内 容: オリエンテーション</p> <p>教科書・指定図書</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): フィールドワークの準備 内 容: フィールドワーク(1) ① 学生のニーズ、フィールドワークに関する情報収集</p> <p>教科書・指定図書</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): フィールドワークの実践 内 容: フィールドワーク(1) ②</p> <p>教科書・指定図書</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): フィールドワークの実践 内 容: フィールドワーク(1) ③</p> <p>教科書・指定図書</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): フィールドワークの実践 内 容: フィールドワーク(2) ①</p> <p>教科書・指定図書</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): フィールドワークの実践 内 容: フィールドワーク(2) ②</p> <p>教科書・指定図書</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): フィールドワークの実践 内 容: フィールドワーク(2) ③</p> <p>教科書・指定図書</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): フィールドワークの実践 内 容: フィールドワーク(3) ①</p> <p>教科書・指定図書</p>

第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): フィールドワークの実践          内 容:フィールドワーク (3) ②</p> <p>教科書・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): フィールドワークの実践          内 容:フィールドワーク (3) ③</p> <p>教科書・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): フィールドワークの実践          内 容:フィールドワーク (3) ④</p> <p>教科書・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): フィールドワークの実践          内 容:フィールドワーク (4) ①</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): フィールドワークの実践          内 容:フィールドワーク (4) ②</p> <p>教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): フィールドワークの実践          内 容:フィールドワーク (4) ③</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):          内 容:最終報告、まとめ</p> <p>教科書・指定図書</p>
試 験	

<b>〔科目名〕</b> マクロ経済学	<b>〔単位数〕</b> 4 単位	<b>〔科目区分〕</b> 専門科目 基礎科目
<b>〔担当者〕</b> 山本 俊 shunyamamoto0723@yahoo.co.jp	<b>〔オフィス・アワー〕</b> 時間:①授業終了後、②火曜日 5 限、③随時 場所:授業初回にアナウンス	<b>〔授業の方法〕</b> 講義
<b>〔科目の概要〕</b> <p>みなさんは、いわゆる「失われた 20 年」と呼ばれる不況期の半ばに生まれ、その後の緩やかな景気回復期の中で成長してきました。その間に限っても、物価の持続的な低下や、リーマンショックに端を発する世界金融危機、そうした状況からの脱却を目的とした「アベノミクス」などが、毎日のように新聞の記事となってきました。そしてそれらは、家計や企業、政府からなる我が国の生産や消費、投資の全体、すなわち「マクロ経済」に大きな影響を与えてきたのです。この科目を通じて、過去あるいは未来の様々な出来事が「マクロ経済」に与える影響を順序立て説明できるようになり、さらには、自分たちの暮らしへの影響を考えることができるようになって欲しいと思います。そのため、この授業は大きく 3 つのパートによって成り立っています。</p> <p>第 1 は学習意欲を高めるパートです。ここでは、目には見えない「マクロ経済」の可視化に挑戦したり、1920 年代の世界大恐慌時における経済学の大転換について紹介したりします。この大転換はケインズによるものであり、学問を現実に即して批判的に考察するというケインズの精神に触れて欲しいと思います。</p> <p>第 2 はマクロ経済学の基本的なモデルを学習するパートです。ここでは、財市場と金融市場の双方を考慮したマクロ経済学モデルや、外国為替を考慮したモデル、経済成長を分析するモデルを学習します。さらには、これらを学ぶために必要な消費や投資、財政、貨幣、為替相場に関する基本事項についても学習します。</p> <p>第 3 は第 2 の学習を基本としつつ、現実の問題を考察したり、公務員試験問題に挑戦したりすることで、理解を確実なものにするパートです。例えば、現実の問題として、我が国における超緩和金融政策の意義や「アベノミクス」が果たした役割、アジア諸国の経済成長などを扱う予定です。</p> <p>以上の学習では、考えるプロセスを大切にするため、ミクロ経済学や基礎的な数学（微分、等比級数など）の復習も必要に応じて行います。</p>		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・「なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか」</b> <p>マクロ経済学は、私たちの暮らしと密接に関係する「失業問題」や「物価変動」、「為替相場」、「経済政策」の影響などの見通しを与えてくれるだけでなく、諸君が学ぶであろう「金融経済学」や「経済変動論」、「公共政策論」、「ファイナンス理論」等の基本をなしています。従って、時間をかけて、じっくりと学ぶ必要があります。</p>		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> <p>中間目標：①マクロ経済学の規模や物価変動の計測が具体的にできること。          ②基本モデルの意味を理解し、公務員試験問題等により定着を確認できること。          (解けるようになると楽しい。ごちゃごちゃした解説を読むよりも、自分なりに解法を考えて欲しい)</p> <p>最終目標：利子率や所得、為替レートなどの変数間の因果関係を理解し、各変数の変化が私たちの暮らしや仕事に与える影響について、見通しを立てられるようになること。          (学んだことを、身近なところから、活用できるようになること)</p>		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> <p>青森公立大学では、授業評価を頂いたことはありません。しかし、「考えるプロセス」を大切にし、具体的な説明と数多くの問題演習等により、分かりやすい授業を心がけます。</p>		
<b>〔教科書〕</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福田慎一、照山博司 (2016) 『マクロ経済学・入門第 5 版』有斐閣アルマ。          パワーポイントの資料も配布します。</li> </ul>		
<b>〔指定図書〕</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・N. グレゴリー・マンキュー (著)、足立英之他 (翻訳)、「マンキュー マクロ経済学 (第 3 版) 1 入門篇」、東洋経済新報社、2011 年</li> <li>・N. グレゴリー・マンキュー (著)、足立英之他 (翻訳)、「マンキュー マクロ経済学 (第 3 版) 2 応用篇」、東洋経済新報社、2011 年</li> </ul>		

・齊藤誠・岩本康志・太田聰一・柴田章久, 「マクロ経済学 New Liberal Arts Selection」 新版, 有斐閣, 2016 年

【参考書】

- ・二神考一 (2017) 『マクロ経済学入門 第3版』日本評論社。  
 ※可能な限り数式を使わず、直感的な説明が多い。教科書よりも的を絞っている。
- ・中谷巖、下井直毅、塚田裕昭 (2021) 『入門マクロ経済学 第6版』日本評論社。  
 ※長期と短期を明確に区別しており、さらには、2021年2月刊行のためデータも新しく、MMT理論などの新しいトピックも扱っている。教科書よりも突っ込んだ内容となっている。

【前提科目】

・特になし。ただし、ミクロ経済学や経済数学を履修しているとより良い。

【学修の課題、評価の方法】(テスト、レポート等)

以下の①から③の合計を評価基準に照らして評価します。

- ① 期末試験の得点：6割
- ② クイズの得点：3割
- ③ 課題の取り組み状況等：1割

【評価の基準及びスケール】

評価	得点割合	評価	得点割合
A	100%～80%	D	60%未満～50%
B	80%未満～70%	F	50%未満
C	70%未満～60%	—	—

【教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望】

- ①考えるプロセスを大切に授業を強く意識します。
- ②理解を確かなものにするため、確認問題を配布しますので確実にこなしてください。
- ③不足している予備知識がある場合には可能な限り授業内で補います。
- ④学習効果を高めるため、教科書の内容が前後したり、教科書にない内容を取り上げたりする場合があります。
- ⑤試験については、学生の努力が報われるような出題を心掛けます。

【実務経歴】

特になし

授業スケジュール

第1回	<p>テーマ(何を学ぶか):経済、経済学とは何か?+ガイダンス</p> <p>内 容:「経済」という言葉を知らない学生は一人もいないでしょう。しかし、その意味を簡潔に述べることは容易いことではありません。この授業では、経済の全体像の可視化に挑戦したいと思います。</p> <p>教科書・指定図書：</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか):2つのGDPとGDPの面白ばなし</p> <p>内 容:GDPには大きく2種類ありますので、その違いをしっかりと理解してください。</p> <p>教科書・指定図書：教科書第1章</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか):GDPデフレーターとCPI</p> <p>内 容:GDPの計測に関して、物価変動がどうして厄介者なのか、そこにどんな工夫をもって向き合うべきかを理解してください。</p> <p>教科書・指定図書：教科書第1章</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか):マクロ経済学の巨人「ケインズ」の学ぶ姿勢</p> <p>内 容:皆さんが学ぶマクロ経済学の基本を創り上げたのはケインズです。1923年の世界大恐慌で生じた大量失業問題に、彼はどのように向き合ったのでしょうか?ケインズの学ぶ姿勢に触れることで、今後の学習意欲を高めてください。また、シフトパラメータという概念も理解してください。</p> <p>教科書・指定図書：教科書第10章に関連</p>

第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):消費の拡大には何が必要か?</p> <p>内 容:家計の消費を拡大させる要因はなんのでしょうか?一方で、消費を抑制した場合には何が増加するのでしょうか?こうした視点から経済全体の動きについて考えてみましょう。</p> <p>内 容:</p> <p>教科書・指定図書 : 教科書第2章</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):日本の貯蓄率の国際比較とその変化</p> <p>内 容:日本人の貯蓄率は高かったものの、最近はその低下が指摘されています。どうしてこうした変化が生じてきたのでしょうか。その理由を考えてみましょう。</p> <p>教科書・指定図書 : 教科書第2章</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):投資と利子率の間には、どんな関係があるのでしょうか?</p> <p>内 容:企業の設備投資と利子率の関係をしっかり理解して下さい。ここでの考え方は財市場と金融市場の間の関係性を学ぶ上でも重要になります。</p> <p>教科書・指定図書 : 教科書第3章</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):投資はどのように行われるのか?</p> <p>内 容:企業の設備投資には、固定資本減耗が生じるだけでなく、費用や時間も必要になります。</p> <p>教科書・指定図書 : 教科書第3章</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):企業の資金調達と家計の資産選択</p> <p>内 容:我が国の間接金融(銀行借入れ)の優位を出発点に、企業の資金調達と家計の資産選択について考えてみましょう。</p> <p>教科書・指定図書 : 教科書第4章</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):1989年12月29日と株価に関する2つの理論</p> <p>内 容:日経225とは何でしょうか?また、1989年12月29日には何があったのでしょうか。こうした説明から、株価の決定理論と企業価値について考えてみましょう。</p> <p>教科書・指定図書 : 教科書第4章</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):どんなときに貨幣が必要になるのか?</p> <p>内 容:マクロ経済学に登場する金融資産の中心は貨幣と債券です。では、どんなときに、どちらの金融資産を保有すべきでしょうか?ここでは、債券の利回りの計算についても触れておきましょう。</p> <p>教科書・指定図書 : 教科書第5章(※4章も一部含む)</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):貨幣需要関数の登場</p> <p>内 容:横軸に貨幣需要量、縦軸に利子率をとった場合、第11回目の内容から、どんなグラフが描かれるのでしょうか?ここでも、シフトパラメータが登場します。</p> <p>教科書・指定図書 : 教科書第5章(※4章も一部含む)</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):中央銀行の役割と貨幣需給の均衡</p> <p>内 容:我が国の貨幣供給の調整は中央銀行たる日本銀行が担っています。では、中央銀行による貨幣供給と私たちの貨幣需要が一致するとき、総生産と利子率はどのような動きを見せるのでしょうか?</p> <p>教科書・指定図書 : 教科書第5章</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):LM曲線の登場</p> <p>内 容:第13回目の内容をもとに、LM曲線を導出してみましょう。また、アベノミクスの流れを汲む現在のような金融緩和策が採られた場合、LM曲線にはどんな影響があるのでしょうか?</p> <p>教科書・指定図書 : 教科書第5章</p>

第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):経済分析のはじまり ー有効需要原理と45度線分析ー</p> <p>内 容:ケインズは実際に財やサービスを購入可能な人々の「欲しい」という思いを有効需要と呼び、それに見合った供給が実現すると主張しています。では、こうした考え方を簡単な数式と図を使って表現すれば、どうなるのでしょうか?さあ、経済分析の始まりです。</p> <p>教科書・指定図書:教科書第6章</p>
第16回	<p>テーマ(何を学ぶか):満を持してIS曲線の登場です</p> <p>内 容:LM曲線の導出にならって、財市場が均衡するような総生産と利子率の関係を図示してみよう。そこに描かれているのがIS曲線です。では、当初アベノミクスが掲げていた財政出動策はIS曲線にどんな影響をもたらしたのでしょうか?</p> <p>内 容:</p> <p>教科書・指定図書:教科書第6章</p>
第17回	<p>テーマ(何を学ぶか):中間クイズ</p> <p>内 容:ここまでの学習内容に関してクイズを実施し、その内容について解説します。(復習)</p> <p>教科書・指定図書:教科書第6章</p>
第18回	<p>テーマ(何を学ぶか):IS-LM分析①ークラウンディング・アウト効果ー</p> <p>内 容:財市場と貨幣市場が同時に均衡するとき、失業はゼロになっているのでしょうか?もし、失業者が発生している場合、ケインズの指摘のように財政出動策によって雇用対策を実施すれば、思わぬ副作用が発生してしまいます。これがクラウンディング・アウト効果です。</p> <p>内 容:</p> <p>教科書・指定図書:教科書第7章</p>
第19回	<p>テーマ(何を学ぶか):IS-LM分析② ー流動性のわなと問題演習ー</p> <p>内 容:失業問題を金融緩和策によって対応すれば、クラウンディング・アウト効果は発生しません。しかし、金融緩和策が有効に機能しないケースも存在します。それが流動性のわなです。</p> <p>内 容:</p> <p>教科書・指定図書:教科書第7章</p>
第20回	<p>テーマ(何を学ぶか):IS-LM分析③ ー投資の利子弾力性がゼロのケースと問題演習ー</p> <p>内 容:第18回目の授業で学んだように、金融政策が有効に機能しないケースは他にもあることが知られています。それは投資の利子弾力性がゼロのときです。</p> <p>教科書・指定図書:参考書 中谷他(2021)の6章などをご覧ください。</p>
第21回	<p>テーマ(何を学ぶか):IS-LM分析④ ー問題演習による復習(ミニクイズもあるかも)ー</p> <p>内 容:ここでは、IS-LM分析の問題演習を通じて、復習したいと思います。</p> <p>教科書・指定図書:参考書 中谷他(2021)の6章などをご覧ください。</p>
第22回	<p>テーマ(何を学ぶか):超金融緩和策の効果とは?</p> <p>内 容:ここでは、名目利子率やと非伝統的金融政策を学んだ上で、日本銀行のマイナス金利政策や上場投資信託などの購入の必要性和効果について考えてみましょう。</p> <p>教科書・指定図書:教科書第6章</p>
第23回	<p>テーマ(何を学ぶか):財政出動の後遺症とは?</p> <p>内 容:「10万円の特別定額給付金は、現在の皆さんが将来の皆さんからした借金のようなものです。よって、返済に向けて貯蓄しておかなければならないので、消費にはつながりにくいのです」という考え方を皆さんはどう思いますか?国債の中立命題について学習します。</p> <p>教科書・指定図書:教科書第8章</p>
第24回	<p>テーマ(何を学ぶか):インフレとデフレ</p> <p>内 容:例えば、インフレと言っても、コスト上昇によるもの、需要の変化によるもの、市場構造によるもの、災害や戦争などによるもの、金融政策によるもの、複数の要因によるもの(「狂乱物価」)など、いくつもありま</p>

	<p>す。ここでは、インフレやデフレのメカニズムを理解し、これらがなぜ望ましくないのかを考えて見たいと思います。</p> <p>教科書・指定図書：教科書第9章</p>
第25回	<p>テーマ(何を学ぶか):労働市場の分析</p> <p>内 容:第4回目の授業でも学んだように、世界大恐慌における失業問題に対し、当時の(古典派)経済学は有効な解決策を提示できなかったものの、ケインズは完全雇用が実現するまでは賃金が硬直的だと考えることで、新たな考え方を提案しました。ここでは、その後に主張された失業率とインフレとの関係(フィリップス曲線や自然失業率仮説など)について考えてみましょう。</p> <p>教科書・指定図書：教科書第10章</p>
第26回	<p>テーマ(何を学ぶか):経済成長の理論と成果</p> <p>内 容:ソローの成長会計を学習し、経済成長の要因について理解しましょう。その後、デニスンによる高度成長期当時の成長要因に関する国際比較や、失われた10年当時の日本の成長要因について学習します。また、中国や東アジアの経済成長についても考えてみましょう。</p> <p>教科書・指定図書：教科書第11章</p>
第27回	<p>テーマ(何を学ぶか):国際マクロ経済学①</p> <p>内 容:これまで輸出入については考えてきませんでしたが、ここでは、対外経済取引について説明した後、海外との取引を含めたマクロ経済学の理論を学習します。</p> <p>教科書・指定図書：教科書第12章及び中谷他(2021)の第7章</p>
第28回	<p>テーマ(何を学ぶか):国際マクロ経済学②</p> <p>内 容:為替相場制度の歴史的な推移と2つの制度の違いについて考えてみましょう。</p> <p>教科書・指定図書：教科書第12章及び中谷他(2021)の第7章</p>
第29回	<p>テーマ(何を学ぶか):国際マクロ経済学③</p> <p>内 容:IS-LM分析に、為替相場を含めることで、国際マクロ経済学の基本的な理論モデルを学習します。これはマンデル=フレミング・モデルと呼ばれるものです。</p> <p>教科書・指定図書：教科書第12章及び中谷他(2021)の第7章</p>
第30回	<p>テーマ(何を学ぶか):国際マクロ経済学④</p> <p>内 容:2つの為替相場制度の下で、経済政策の効果がどのように異なるのかを考えてみましょう。</p> <p>教科書・指定図書：教科書第12章及び中谷他(2021)の第7章</p>
試験	<p>これまでの学習内容に関する期末試験を実施します。</p>